

平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査結果の分析

令和元年11月

四日市市教育委員会

目 次

1	全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移	p 1
2	教科別 正答数分布グラフ	p 3
3	校種・教科別 調査結果概要	p 6
4	児童生徒質問紙の結果について	
(1)	教科に関する項目	p 11
(2)	学校生活等の意識に関わる項目	p 15
	【コラム①】学習の基盤となる7つの力について	p 18
	【コラム②】四日市の子の今年の結果から	p 26
5	学校質問紙の結果について	
(1)	学力向上に関する全市的な取り組み状況について	p 30
(2)	新学習指導要領を踏まえた授業改善等について	p 32
6	今後の取り組みの重点	p 35
7	参考資料	p 37

1 全国学力・学習状況調査結果の5年間の推移 (H27～)

※ 平成29年度から、文部科学省の結果提供（平均正答率）は、本市と三重県は整数値、全国は小数値となっています。

※ 令和元年度より、A問題（知識）とB問題（活用）の区分が見直され、一体的に構成されています。

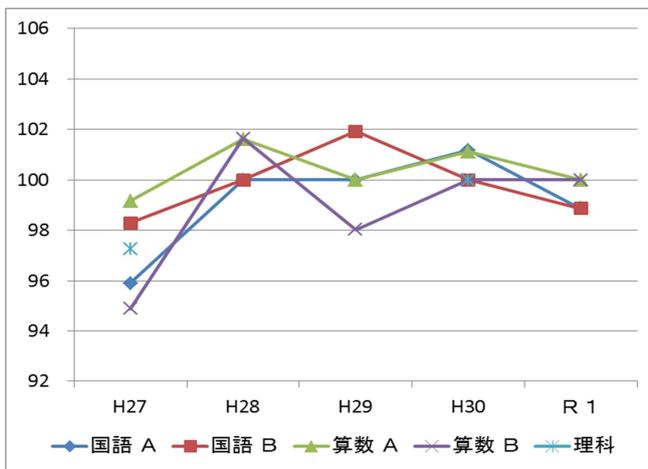
※ 数値は平均正答率。〈 〉内は平均正答数。

小学校		国語		算数		理科
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)	
平成27年度	本市	67.3 (9.4)	64.2 (5.8)	74.1 (11.9)	43.4 (5.6)	59.1 (14.2)
	三重県	68.0 (9.5)	65.3 (5.9)	74.8 (12.0)	44.1 (5.7)	59.2 (14.2)
	全国 (公立)	70.0 (9.8)	65.4 (5.9)	75.2 (12.0)	45.0 (5.9)	60.8 (14.6)
平成28年度	本市	72.5 (10.9)	58.0 (5.8)	78.7 (12.6)	47.5 (6.2)	
	三重県	71.7 (10.8)	58.1 (5.8)	78.3 (12.5)	47.1 (6.1)	
	全国 (公立)	72.9 (10.9)	57.8 (5.8)	77.6 (12.4)	47.2 (6.1)	
平成29年度	本市	75 (11.2)	59 (5.3)	78 (11.8)	45 (5.0)	
	三重県	74 (11.0)	57 (5.1)	77 (11.6)	45 (4.9)	
	全国 (公立)	74.8 (11.2)	57.5 (5.2)	78.6 (11.8)	45.9 (5.1)	
平成30年度	本市	71 (8.6)	55 (4.4)	65 (9.0)	51 (5.1)	60 (9.6)
	三重県	70 (8.4)	54 (4.3)	63 (8.8)	50 (5.0)	59 (9.4)
	全国 (公立)	70.7 (8.5)	54.7 (4.4)	63.5 (8.9)	51.5 (5.1)	60.3 (9.6)
令和元年度	本市	63 (8.8)		66 (9.3)		
	三重県	64 (9.0)		67 (9.3)		
	全国 (公立)	63.8 (8.9)		66.6 (9.3)		

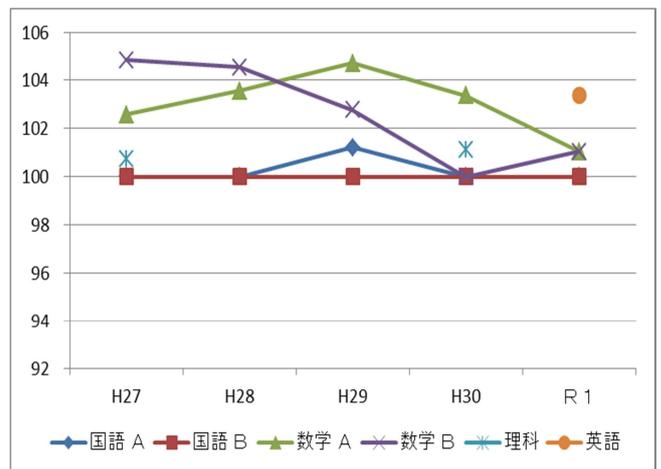
中学校		国語		数学		理科	英語
		A (知識)	B (活用)	A (知識)	B (活用)		
平成27年度	本市	75.8 (25.0)	65.4 (5.9)	66.2 (23.8)	43.5 (6.5)	53.6 (13.4)	
	三重県	75.0 (24.8)	64.3 (5.8)	64.3 (23.2)	40.6 (6.1)	51.9 (13.0)	
	全国 (公立)	75.8 (25.0)	65.8 (5.9)	64.4 (23.2)	41.6 (6.2)	53.0 (13.3)	
平成28年度	本市	75.8 (25.0)	66.7 (6.0)	64.4 (23.2)	45.9 (6.9)		
	三重県	74.4 (24.5)	64.3 (5.8)	62.2 (22.4)	43.2 (6.5)		
	全国 (公立)	75.6 (25.0)	66.5 (6.0)	62.2 (22.4)	44.1 (6.6)		
平成29年度	本市	78 (25.1)	72 (6.5)	68 (24.4)	49 (7.4)		
	三重県	77 (24.6)	71 (6.4)	65 (23.5)	47 (7.1)		
	全国 (公立)	77.4 (24.8)	72.2 (6.5)	64.6 (23.3)	48.1 (7.2)		
平成30年度	本市	76 (24.3)	61 (5.5)	68 (24.6)	47 (6.6)	67 (18.1)	
	三重県	75 (24.1)	60 (5.4)	67 (24.0)	46 (6.4)	66 (17.8)	
	全国 (公立)	76.1 (24.3)	61.2 (5.5)	66.1 (23.8)	46.9 (6.6)	66.1 (17.9)	
令和元年度	本市	73 (7.3)		61 (9.7)			58 (12.2)
	三重県	72 (7.2)		60 (9.6)			56 (11.8)
	全国 (公立)	72.8 (7.3)		59.8 (9.6)			56.0 (11.8)

○ 各教科別調査結果から（全国の平均正答数を100としたときの本市結果の経年変化）

小学校

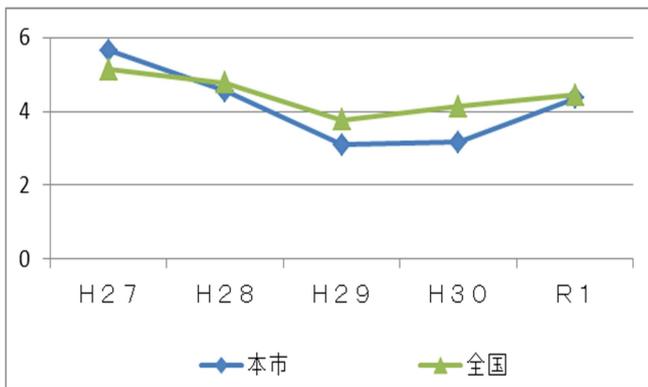


中学校

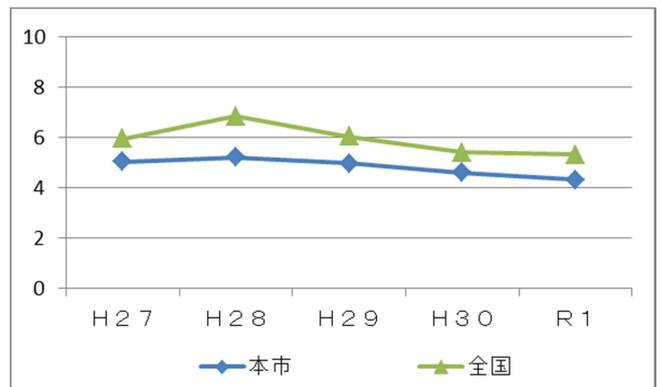


○ 無解答率の経年変化（各教科の無解答率の平均）

小学校



中学校



小中学校5教科のうち4教科において、全国平均以上または同等の結果であった。

※「全国平均以上または同等」とは、平均正答数において小数第1位までの値を全国と比較し、判断している。

(1) 小学校

- ・ 国語は、全国平均を下回る結果であった。特に「漢字」「接続語」「ことわざ」の理解と活用について課題が見られた。
- ・ 算数は、全国と同等の結果であった。

(2) 中学校

- ・ 3教科すべてにおいて、全国平均以上または同等の結果であった。
- ・ 国語は、全国と同等の結果であった。
- ・ 数学と今回初めての調査となった英語の結果については、全国平均を上回る結果であった。特に、英語は、都道府県別及び政令市別の公立学校の平均正答率一覧公表結果から見ても上位グループに属していた。観点別では、「聞くこと」は1.8ポイント、「書くこと」は4.1ポイント全国平均を上回る結果であった。

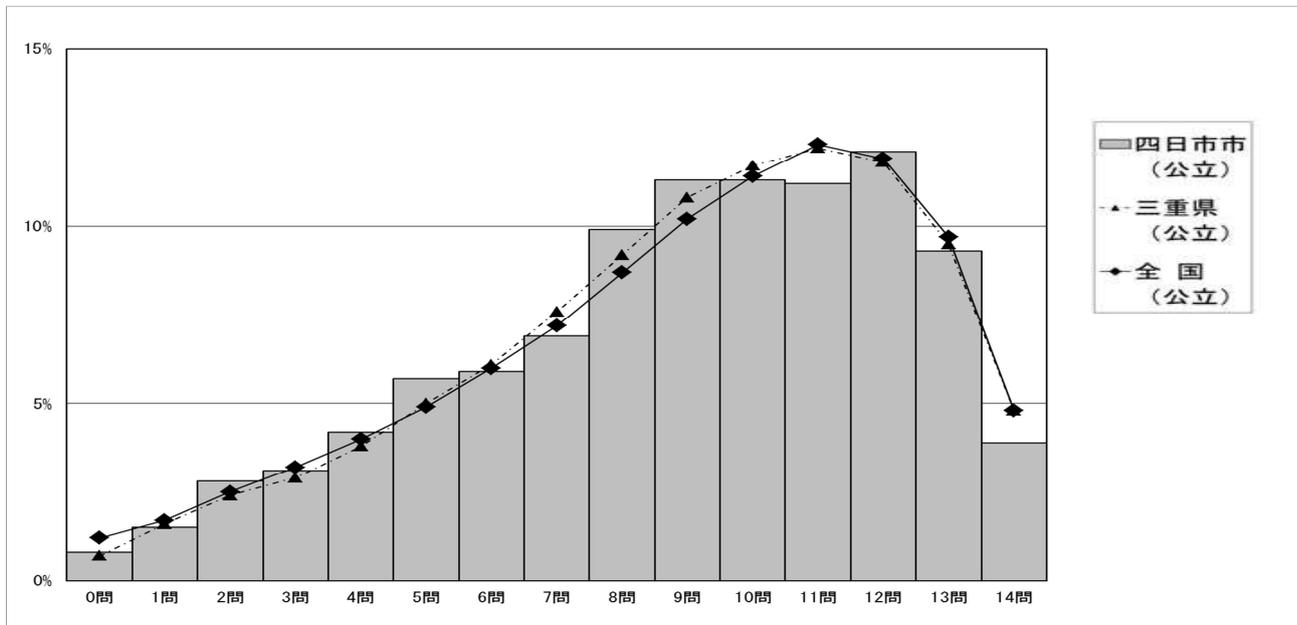
以上の結果から、本市の子どもたちは、義務教育修了時である中学校において、全国と同等あるいはそれ以上の各教科の学力を身に付けているということが分かる。

2 教科別 正答数分布グラフ (小学校)

国語

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,521	8.8 / 14	63	9.0	3.3
三重県 (公立)	15,075	9.0 / 14	64	9.0	3.3
全国 (公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4

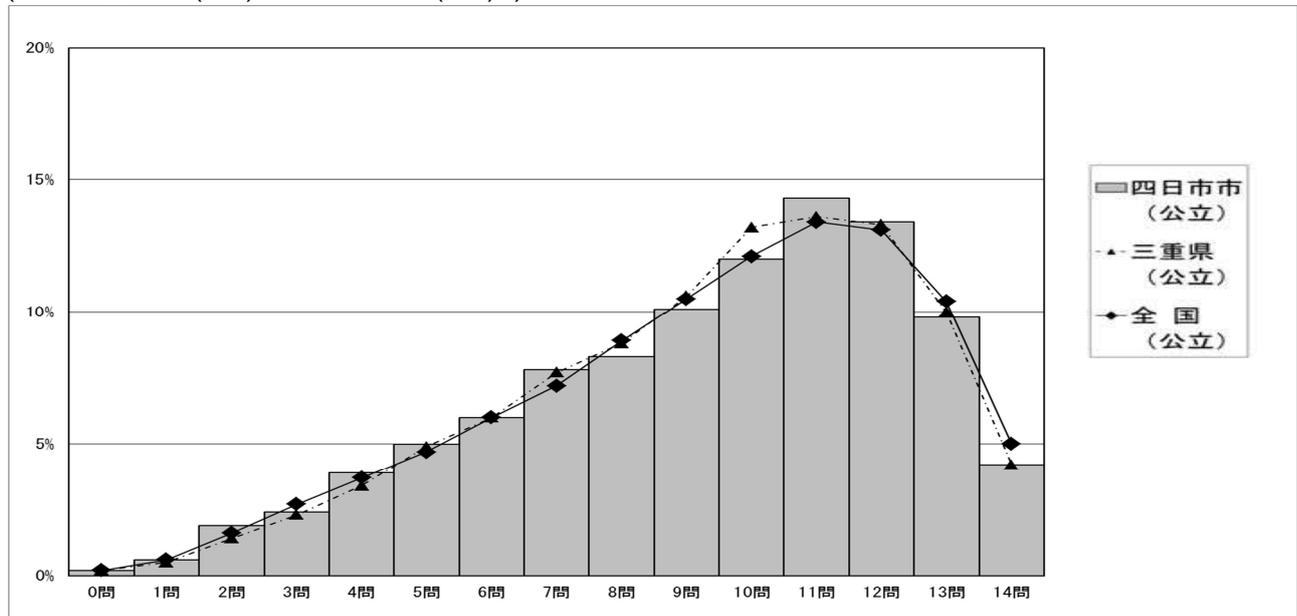
(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))



算数

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,523	9.3 / 14	66	10.0	3.1
三重県 (公立)	15,079	9.3 / 14	67	10.0	3.0
全国 (公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1

(横軸：正答数(問)、縦軸：割合(%))

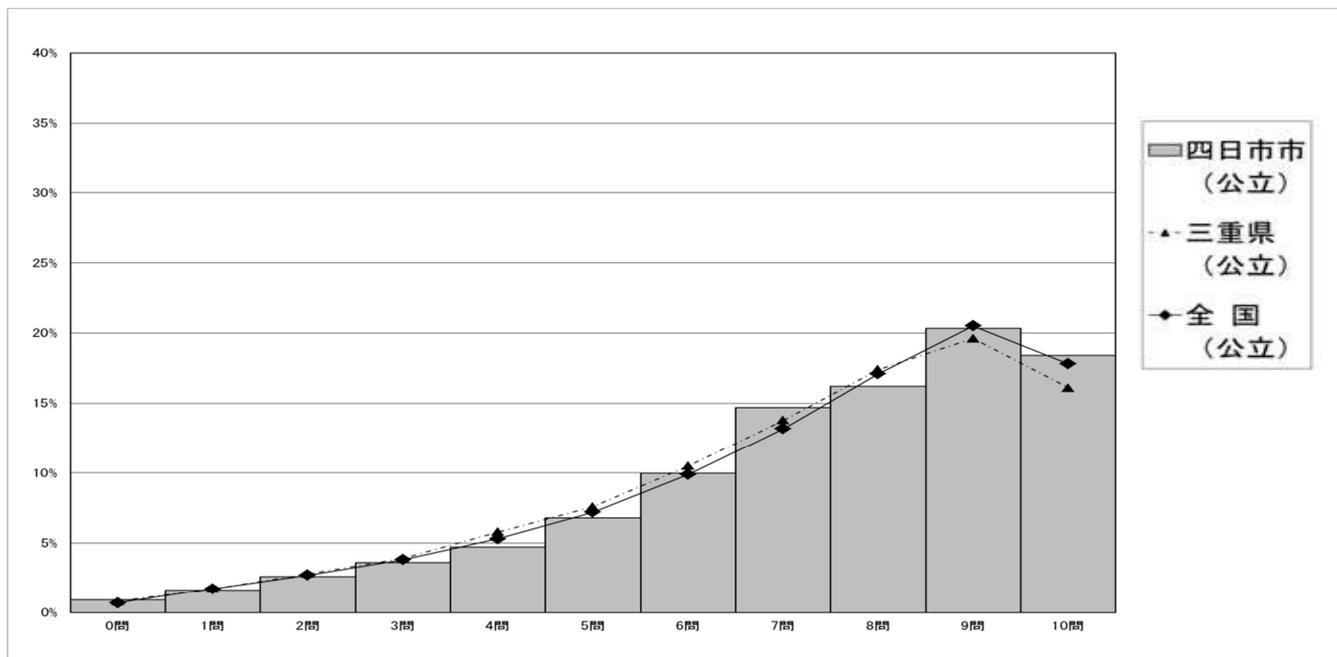


2 教科別 正答数分布グラフ (中学校)

国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,470	7.3 / 10	73	8.0	2.4
三重県 (公立)	14,428	7.2 / 10	72	8.0	2.4
全国 (公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4

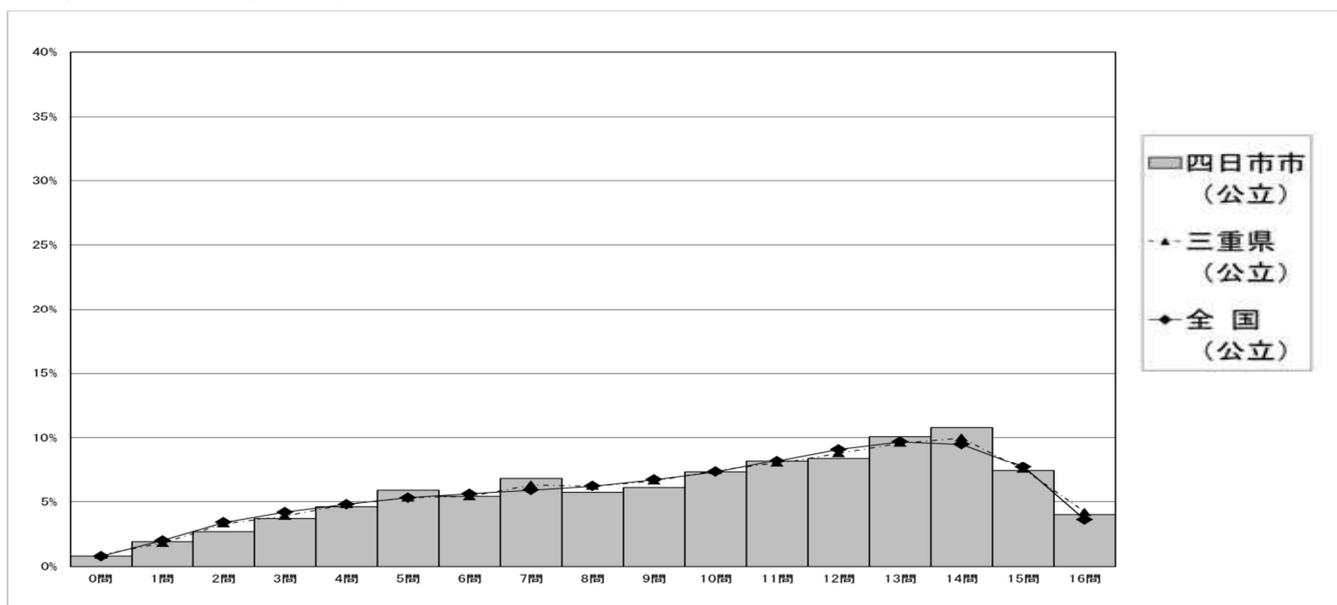
(横軸：正答数 (問)、縦軸：割合 (%))



数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,473	9.7 / 16	61	10.0	4.1
三重県 (公立)	14,431	9.6 / 16	60	10.0	4.2
全国 (公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2

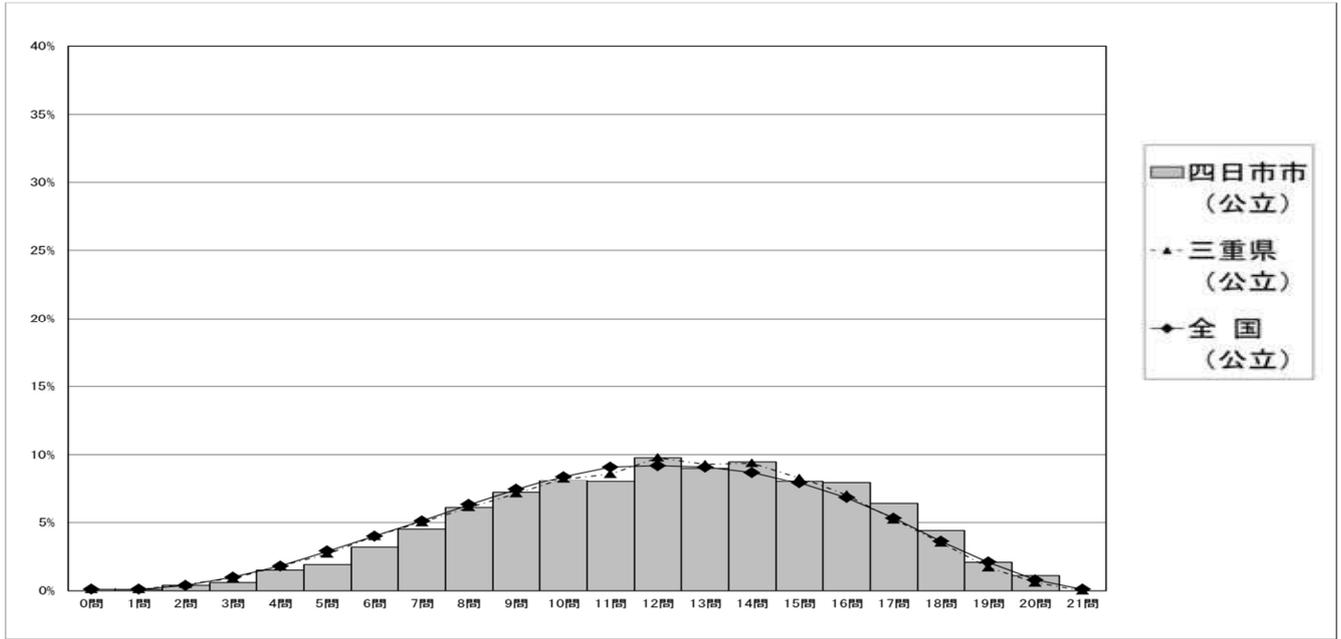
(横軸：正答数 (問)、縦軸：割合 (%))



英語

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
四日市市教育委員会	2,471	12.2 / 21	58	12.0	3.9
三重県 (公立)	14,437	11.8 / 21	56	12.0	3.9
全国 (公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9

(横軸：正答数 (問)、縦軸：割合 (%))



3 校種・教科別 調査結果概要（小学校）

【 小 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語		
	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	3	74.0	72.3	選択式	7	75.4	75.1
書くこと	3	53.9	54.5	短答式	4	45.2	48.7
読むこと	3	82.3	81.7	記述式	3	58.5	57.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	50.7	53.5	全体	14	63	63.8
全体	14	63	63.8				

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▼ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式
1四 (1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の 部アを、漢字を使って書き直す (調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	▼							
1四 (1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の 部イを、漢字を使って書き直す (友達にかぎらず)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	▼							
3三	【インタビューの様子】の「イ」に、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

【 小 学 校 算 数 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	算数			問題形式	算数		
	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国
数と計算	7	63.2	63.2	選択式	5	74.6	75.7
量と測定	3	51.5	52.9	短答式	5	74.1	72.8
図形	2	76.6	76.7	記述式	4	45.6	47.4
数量関係	7	68.5	68.3	全体	14	66	66.6
全体	14	66	66.6				

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【小学校 算数】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式
1 (3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	▽							
2 (2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる	○							
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	○							
3 (2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなになるのかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	▽							
3 (3)	被除数と除数にかける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる	▽							
3 (4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	▽							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

3 校種・教科別 調査結果概要（中学校）

【 中 学 校 国 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	国語			問題形式	国語		
	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国
話すこと・聞くこと	3	70.6	70.2	選択式	6	73.2	73.6
書くこと	2	82.3	82.6	短答式	1	55.9	56.8
読むこと	3	73.0	72.2	記述式	3	78.7	76.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	67.7	67.7	全体	10	73	72.8
全体	10	73	72.8				

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 国語】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等				問題形式		
				話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	▽							
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	○							
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	▽							
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

【 中 学 校 数 学 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	数学			問題形式	数学		
	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国
数と式	5	63.8	63.8	選択式	5	60.4	60.3
図形	4	74.2	72.4	短答式	7	67.5	66.6
関数	3	42.1	40.8	記述式	4	48.7	47.1
資料の活用	4	56.8	56.3	全体	16	61	59.8
全体	16	61	59.8				

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 数学】

- ◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市の状況	領域等				問題形式		
				数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○							
6 (2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	○							
7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	○							
8 (2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	○							

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

【 中 学 校 英 語 】

(1) 学習指導要領の領域別・問題形式ごとの平均正答率（単位 %）

領域等	英語			問題形式	英語		
	設問数	四日市	全国		設問数	四日市	全国
聞くこと	7	69.7	67.9	選択式	13	72.7	71.4
読むこと	6	55.0	55.6	短答式	5	49.5	45.2
書くこと	8	49.9	45.8	記述式	3	8.0	6.8
全体	21	58	56.0	全体	21	58	56.0

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 本市の解答状況【中学校 英語】

◎ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上高い ○ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上高い
 ▽ : 正答率が、全国平均よりも2ポイント以上低い ▼ : 正答率が、全国平均よりも5ポイント以上低い

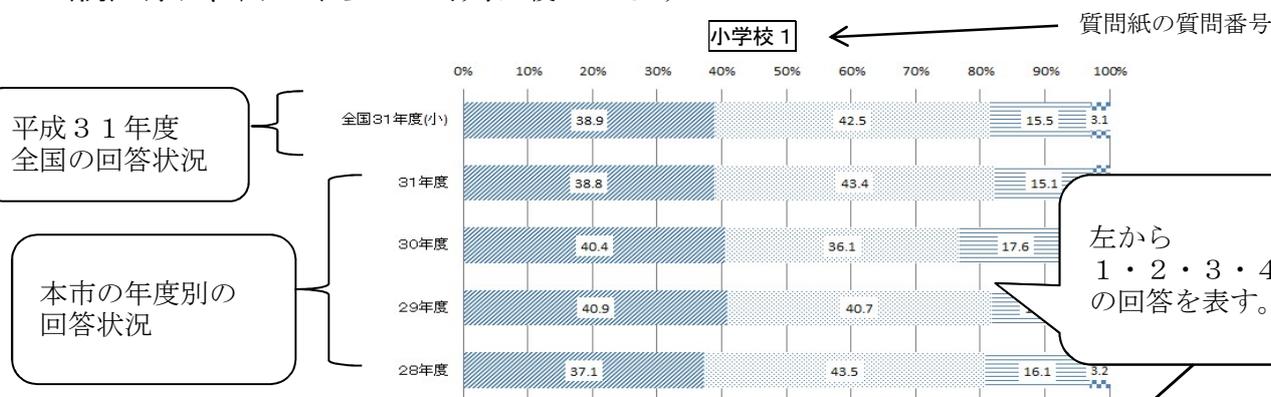
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	四日市市の状況	領域等			問題形式		
				聞くこと	読むこと	書くこと	選択式	短答式	記述式
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	○						
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	○						
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	○						
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	▽						
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる	▽						
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	○						
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる	◎						
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる	○						
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	○						
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	◎						
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	▼						
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる	◎						

※ 2ポイント以上の差がみられた設問について明記

4 児童生徒質問紙の結果について

【グラフの見方】

(例) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



- ※ 数値の合計は100にならない場合がある。
- ※ 回答方法の記載がないグラフの表示は以下のとおりである。
- ※ 肯定回答は1を選択、肯定的回答は1・2を選択した場合を表す。



(1) 教科に関する項目

◇肯定的回答（上記1と2の合計）が、全国の結果を上回っている項目

<小中とも>

- ・ 国語の授業の内容はよく分かりますか。
- ・ 読書は好きですか。
- ・ 算数の授業の内容はよく分かりますか。

<中のみ>

- ・ 国語の勉強は大切だと思いますか。
- ・ 算数の勉強は大切だと思いますか。
- ・ 英語の勉強は好きですか。(小はなし)
- ・ 1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。(小はなし)
- ・ 1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。(小はなし)
- ・ 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。(小はなし)
- ・ 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。(小はなし)
- ・ 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。(小はなし)

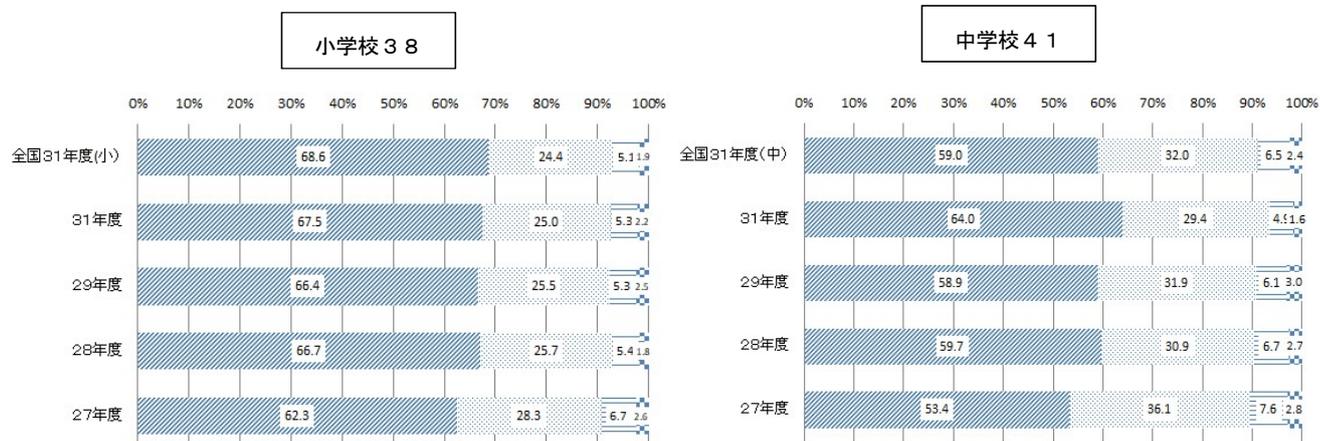


◆課題となる項目

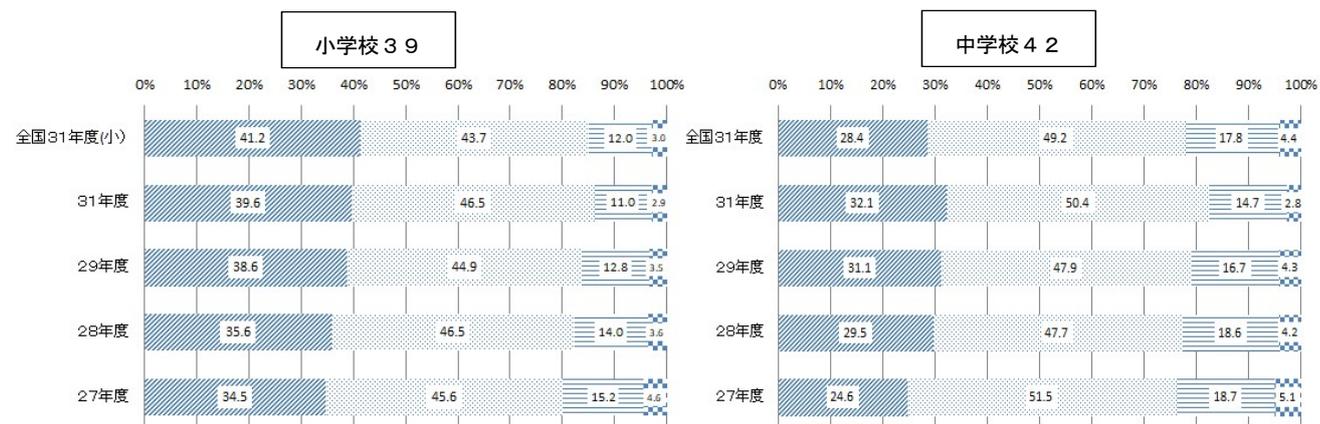
<小のみ>

- 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。(中はなし)

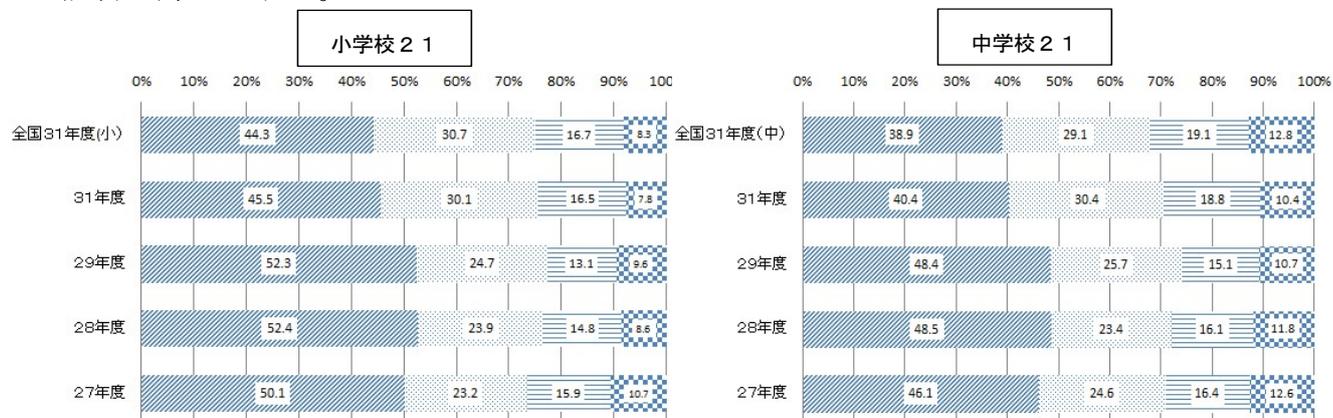
○ 国語の勉強は大切だと思いますか。



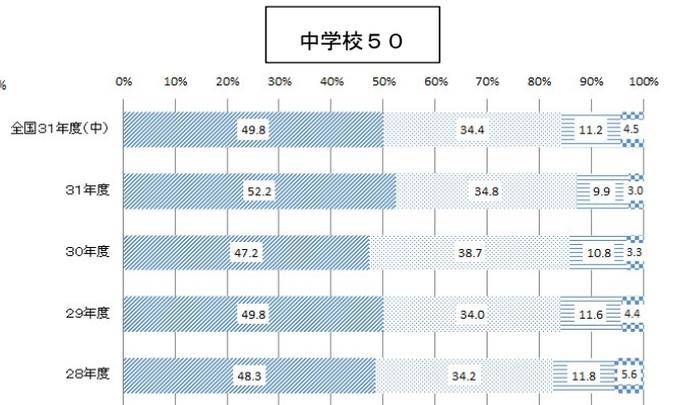
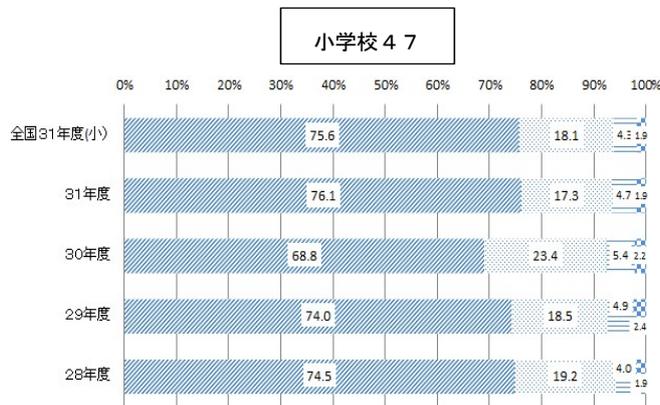
○ 国語の授業の内容はよく分かりますか。



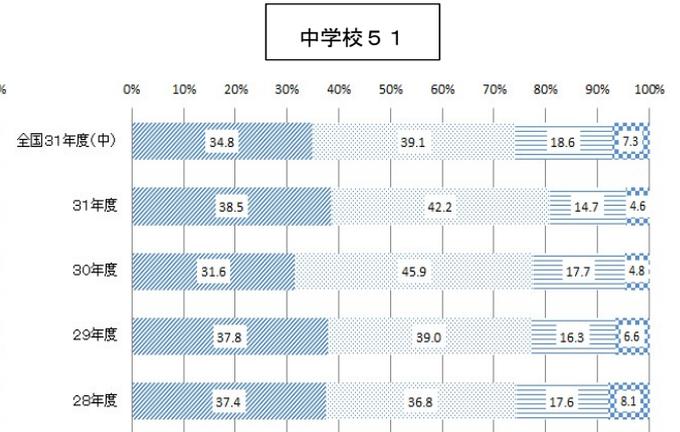
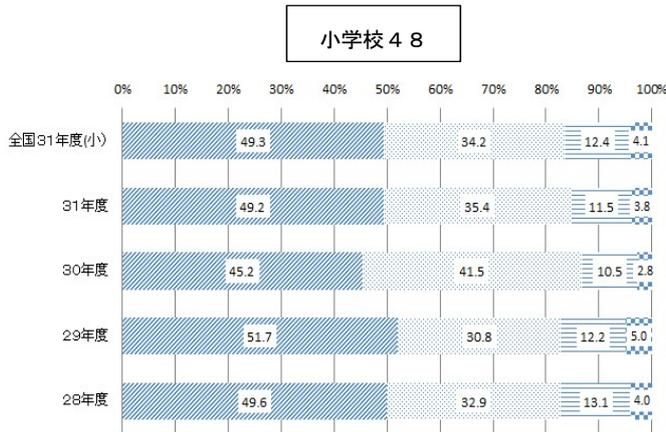
○ 読書は好きですか。



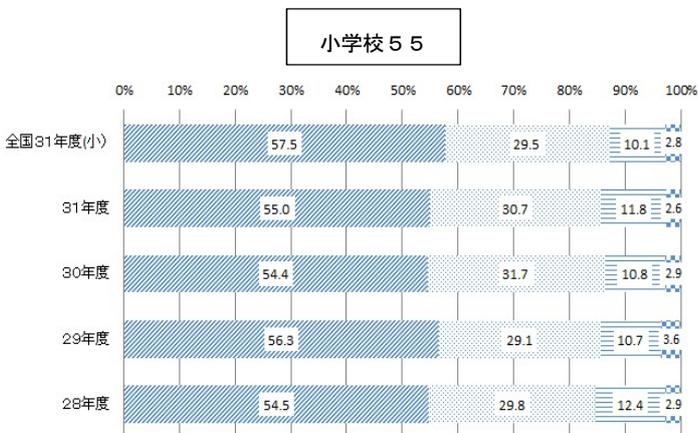
○ 算数の勉強は大切だと思いますか。



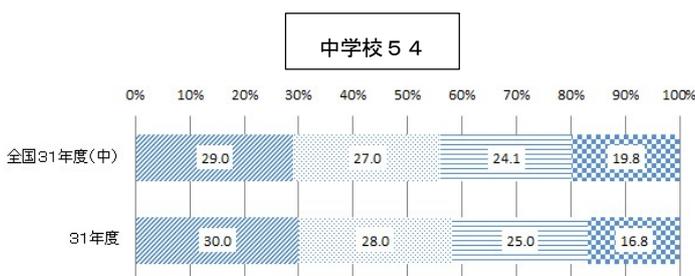
○ 算数の授業の内容はよく分かりますか。



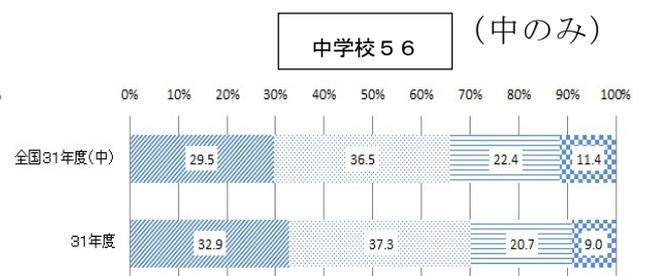
○ 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。(小のみ)



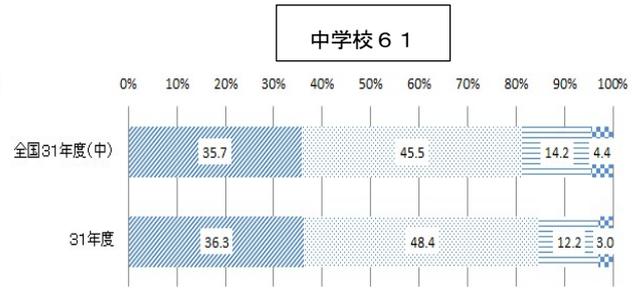
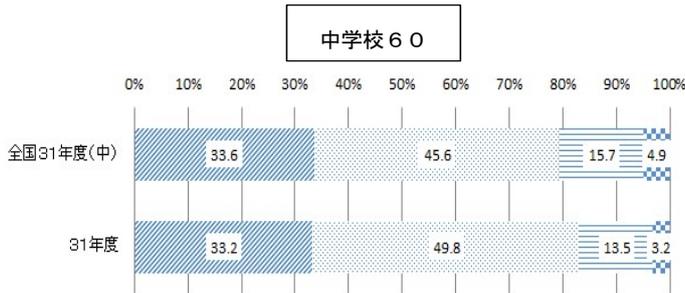
○ 英語の勉強は好きですか。(中のみ)



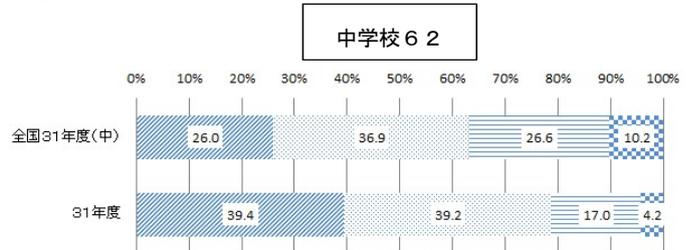
○ 英語の授業はよく分かりますか。(中のみ)



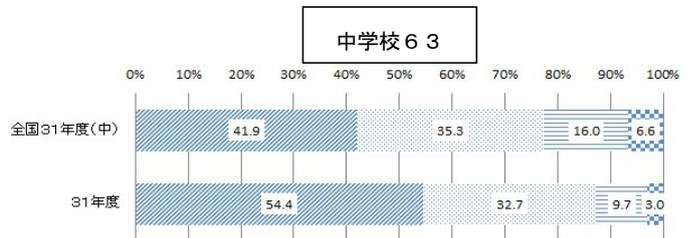
- 1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（左下）・読んで（右下）（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。（中のみ）



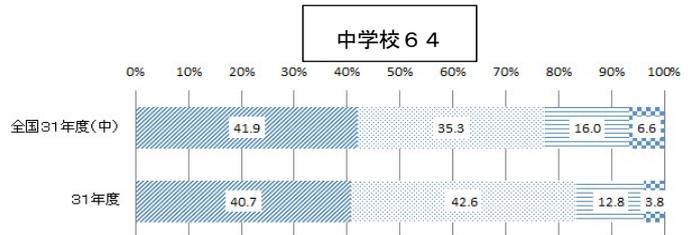
- 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。（中のみ）



- 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。（中のみ）



- 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。（中のみ）



<考察>

- 「国語の勉強は大切だと思いますか」、「算数の勉強は大切だと思いますか」の肯定的回答の割合は、小学校は全国平均を若干下回っているが、中学校は全国平均を上回っている。本市では、中学生の方がより教科の学習の大切さを認識している結果となった。
- 「国語の授業の内容はよくわかりますか」、「算数の授業の内容はよくわかりますか」の肯定的回答の割合は、小中学校ともに全国平均を上回っている。特に、中学校は6.8ポイント上回っている。本市の児童生徒は、毎日の授業において「分かる・できる」といった思いを積み重ねて学んでいることが分かる。しかし、肯定的回答ではない児童生徒もいることは事実である。今後も全員の児童生徒の授業に対する充実感を高めていく必要がある。
- 「読書は好きですか」の設問は、小中学校ともに全国平均を上回っている。今後も、読書に親しむ児童生徒を増やす取り組みを推進していく。
- 英語に関わる設問については、すべて全国平均を上回っている。さらに、「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」など、授業に関わる設問については、全国平均を大きく上回っている。本市の英語教育の取り組みが結果につながっていると考えられる。

(2) 学校生活等の意識に関わる項目

◇肯定的回答が、全国の結果を上回っている項目

<小中とも>

- ・ 自分には、よいところがあると思いますか。(小は同値)
- ・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



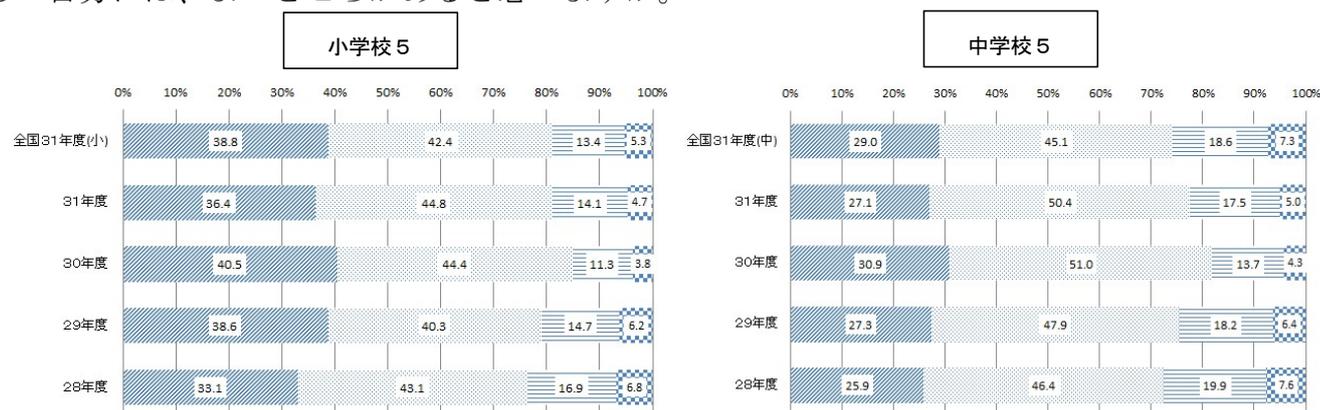
<中のみ>

- ・ 学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ・ 学校のきまり（規則）を守っていますか。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

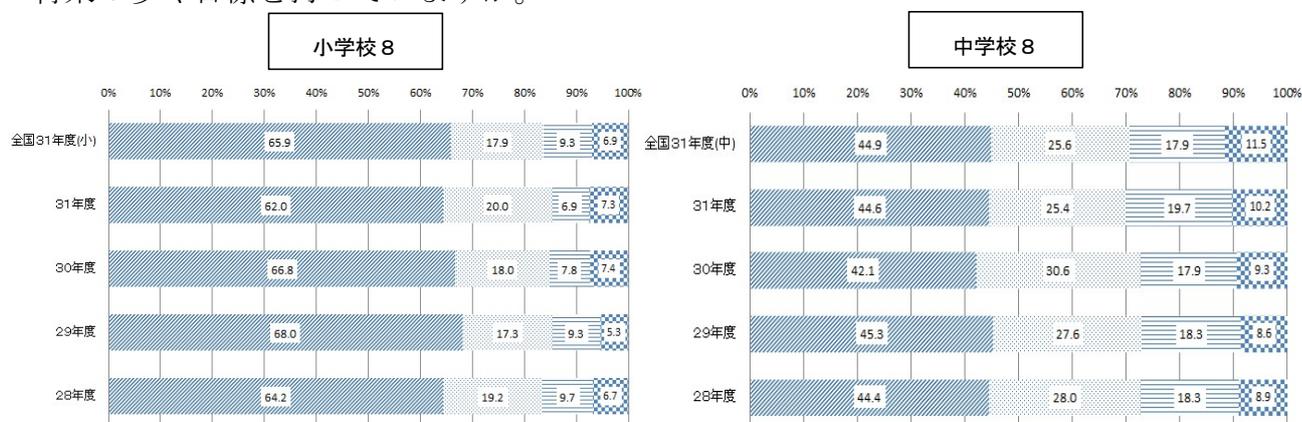
◆課題となる項目

- ・ 将来の夢や目標を持っていますか。

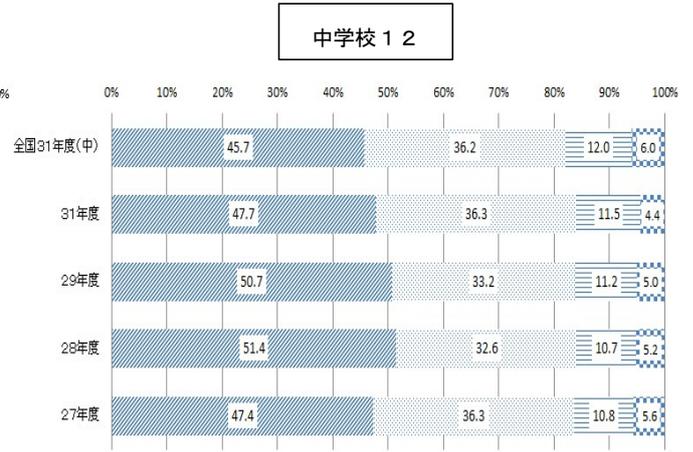
○ 自分には、よいところがあると思いますか。



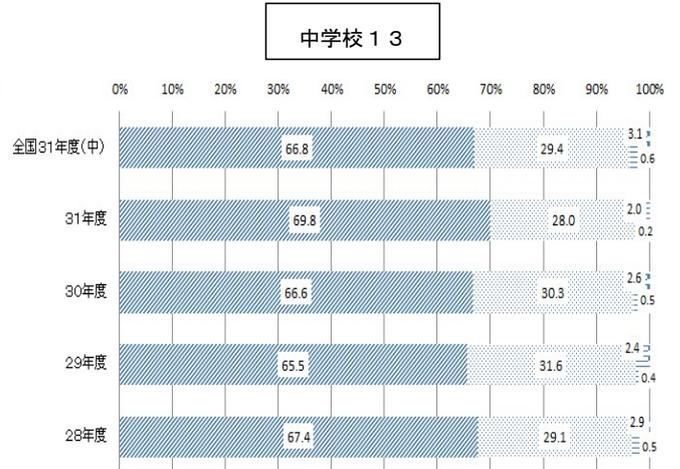
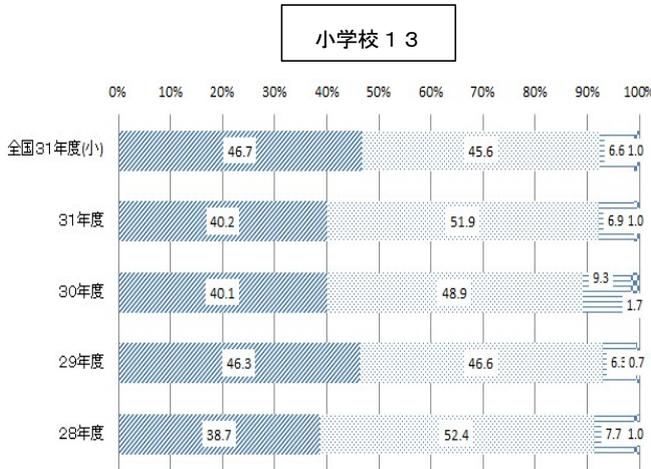
○ 将来の夢や目標を持っていますか。



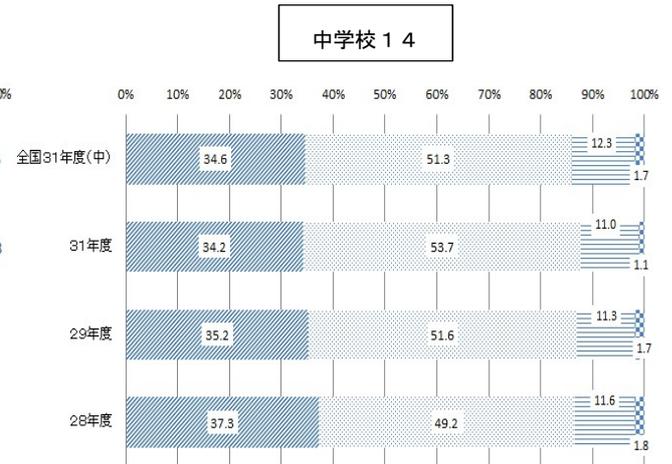
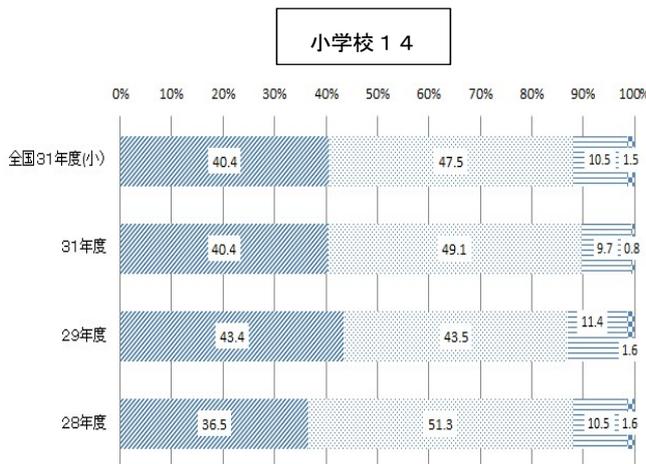
○ 学校に行くのは楽しいと思いますか。



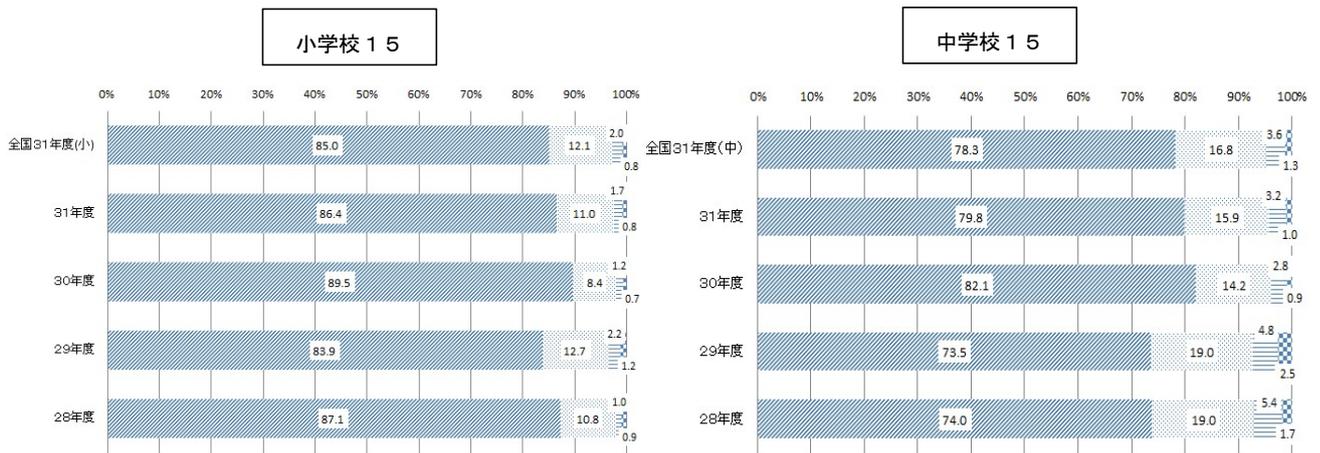
○ 学校のきまり（規則）を守っていますか。



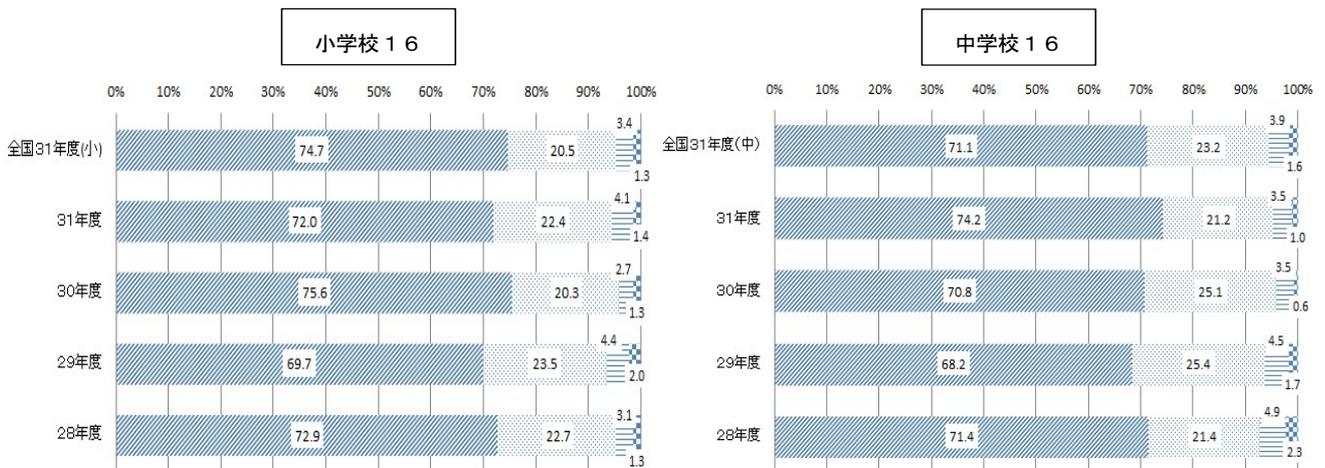
○ 人が困っているときは、進んで助けていますか。



○ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



<考察>

- 「自分には、よいところがあると思いますか」、「学校に行くのは、楽しいと思いますか」の設問は、おおむね全国平均と同等以上の結果となっている。しかし、小学校が2つの設問ともに昨年度よりも下がっている。今後は、教育活動全体を通して、児童生徒の自尊感情等高めることをより一層意識して指導していく必要がある。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の設問については、小中学校ともに全国平均を下回っている。また、肯定的な割合が小学校では82%だったのと比較すると、中学校は70%と下がっている。今後も夢や目標を持ち、自分の将来に希望が持てるように、キャリア教育を推進していく必要がある。
- 「学校のきまり（規則）を守っていますか」の設問は、中学校では97.8%と高い結果となっている。しかし、中学校と比較すると小学校は92.1%と若干低い結果となった。小学校の段階から、きまりを守る意識を育てていく必要がある。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問については、小中学校ともに全国平均を上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問は、小学校が95.2%、中学校が95.4%であった。今後も100%を目指し、取り組みを推進していく必要がある。

【コラム①】

学習の基盤となる7つの力について

★子どもたちは、教科の学習だけでいいの？



子どもたちが変化の激しい社会を豊かに生きていくために、教科の枠を超えた「学習の基盤となる資質・能力の育成」が求められています。

①論理的に考える力



②情報を整理し活用する力



③問題を解決する力



④言葉で通じ合う力



⑤分析的・クリティカルに吟味する力



⑥自分の学習をコントロールする力



⑦新しいことや分からないことに挑戦する力 (好奇心・探求心)



これから大切にしたい
「**学習の基盤となる7つの力**」とは？



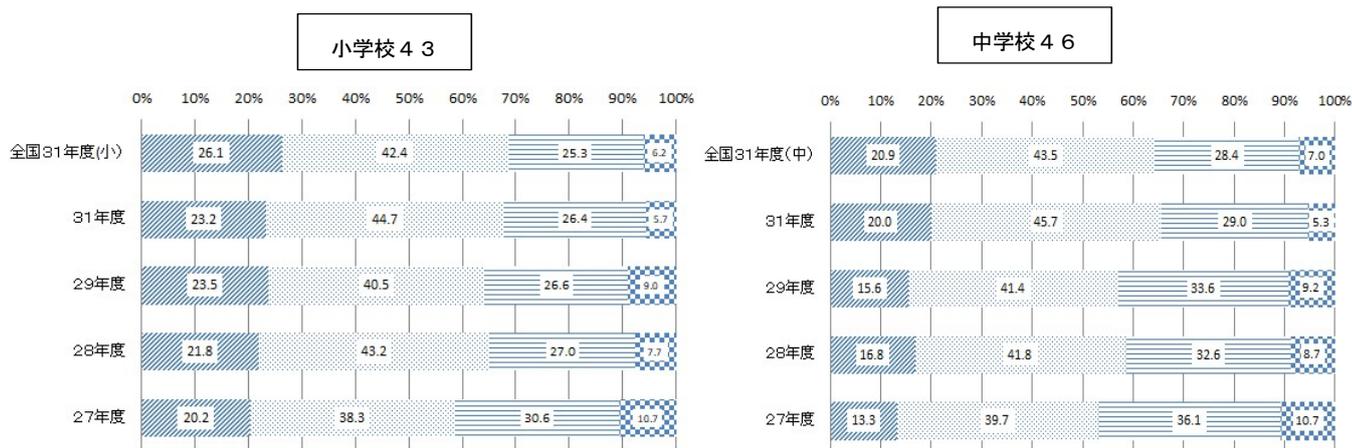
①論理的に考える力に関わって

論理的に考える力は、自分の考えを分かりやすく話したり書いたりする際に働く力であり、これからの社会において求められている重要な力の一つである。

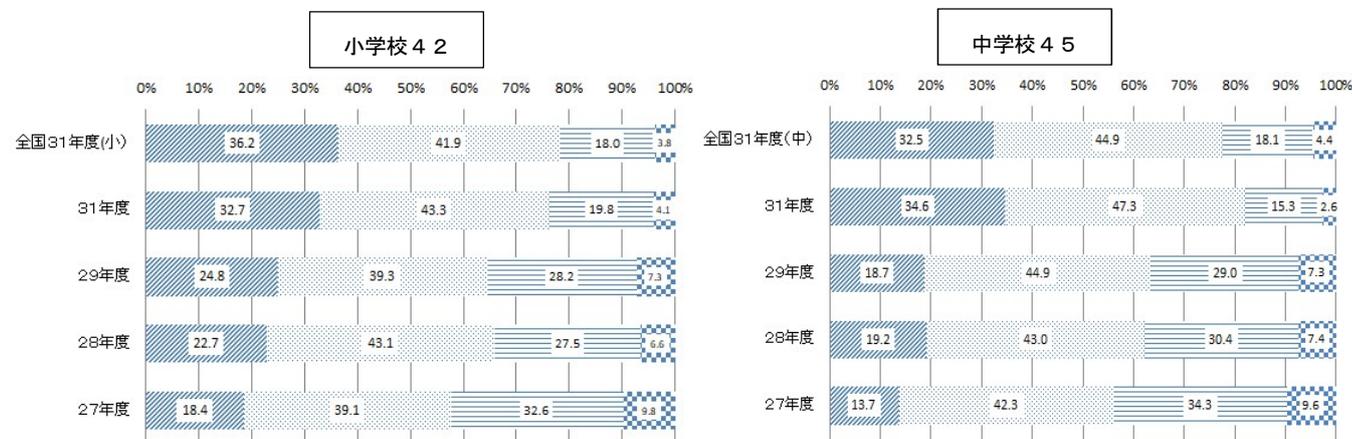
本市の子どもたちは、中学校の結果を見ると義務教育9年間において、**論理的に考える意識は着実に育っている**と考えられる。



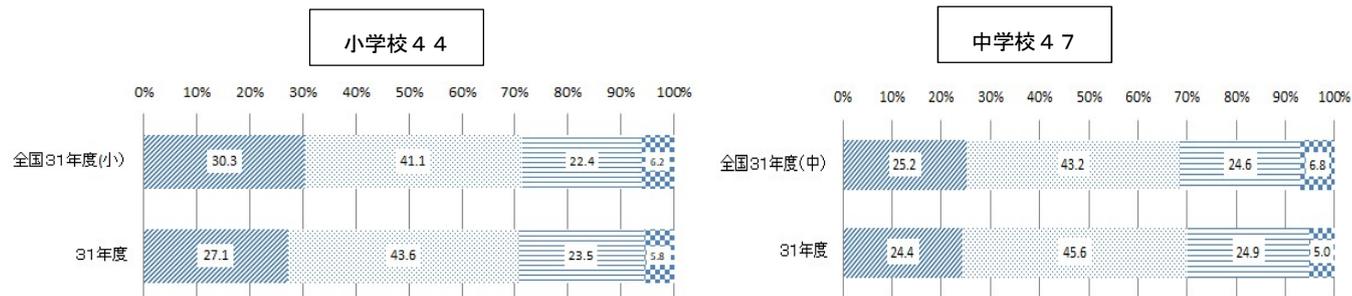
- 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか。



- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



- 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか。



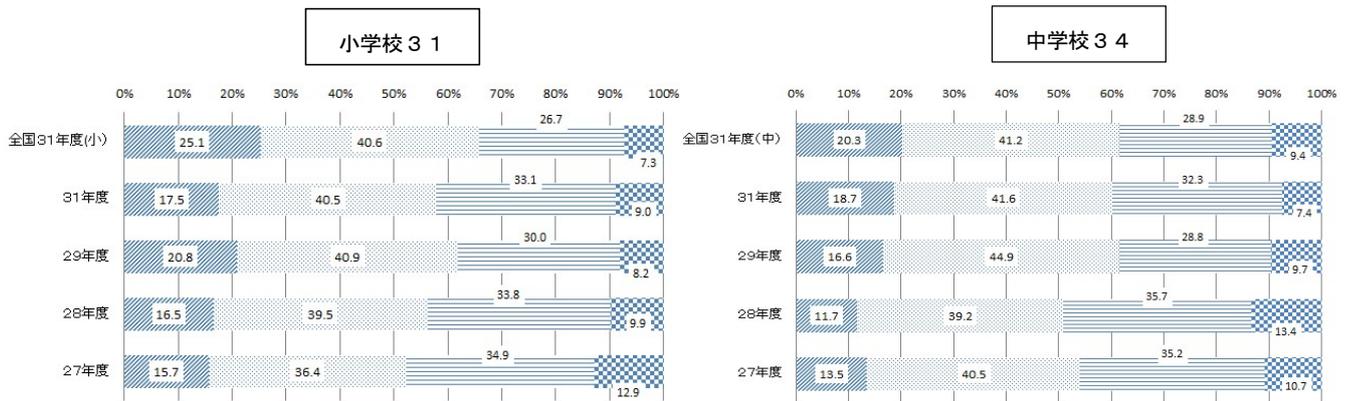
②情報を整理し活用する力に関わって

本市の小中学校では、全国と比較して子どもたちがコンピュータなどのICT機器を活用して学んでいる。

全国でも新聞を読む機会は減少傾向であるが、インターネットの普及などを考慮すると、子どもたちが情報に触れる機会は、増加することが予想される。今後も、情報化社会を生きていく子どもたちに、自ら情報を選択し、活用するといった力を育てていく必要がある。



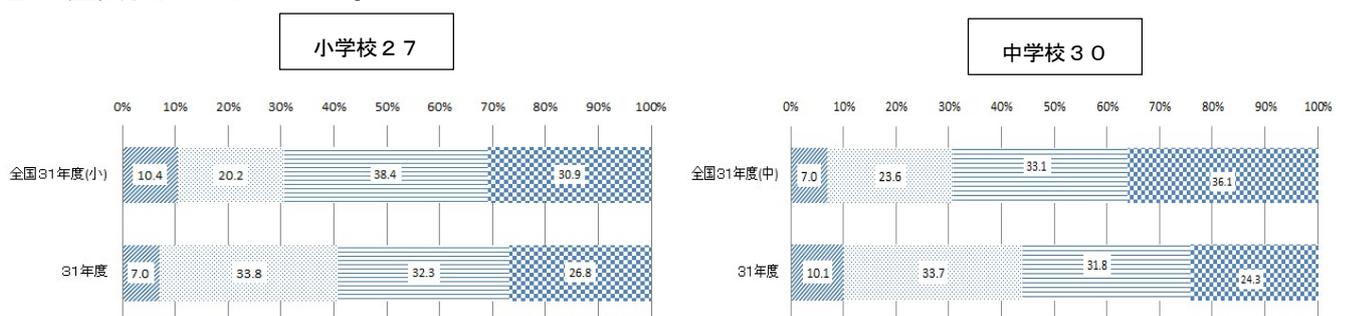
- 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



- 新聞を読んでいますか



- 小学校5年生、中学校1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。



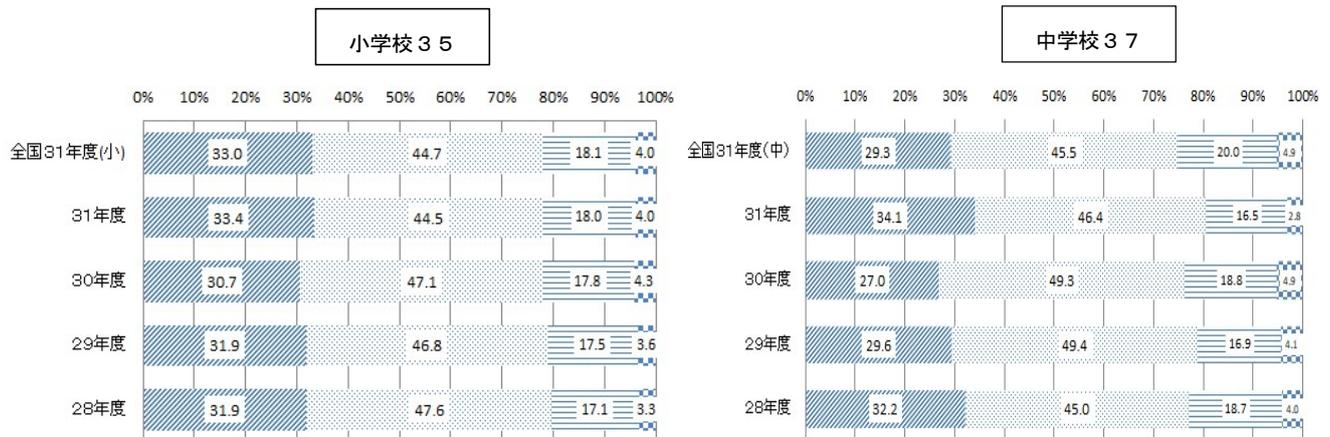
③問題を解決する力に関わって

本市の児童生徒は、授業の中で課題の解決に向けて、自ら考え、主体的に取り組んでおり、**問題解決能力の向上に向けた、前向きな姿勢が育っている**ことが分かる。

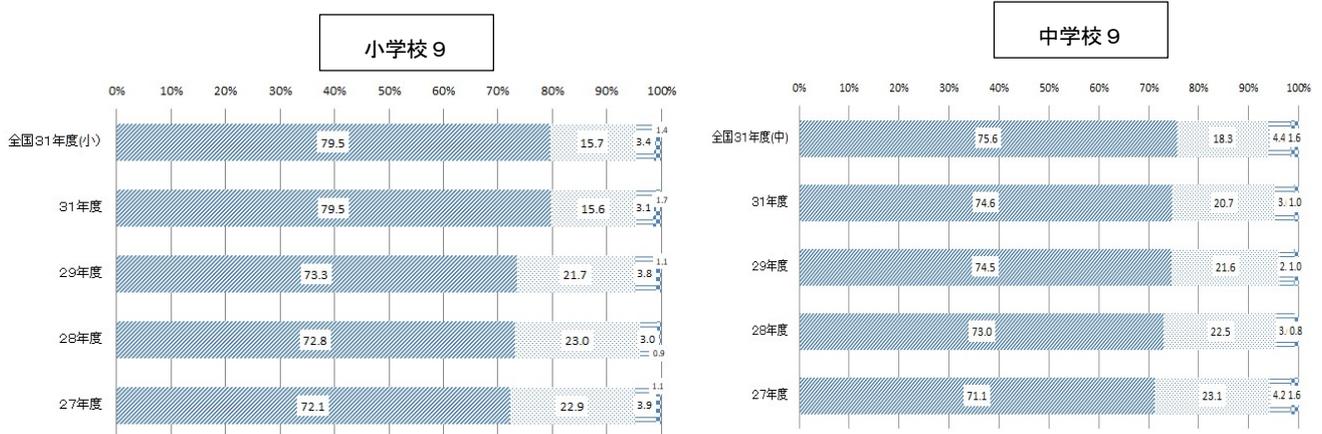
今後も問題解決的な授業づくりを推進することで、児童生徒の学びに向かう力を高めるとともに、未知な状況におかれても問題をよりよく解決できる力を子どもたちに育てていく。



- 小学校5年生、中学校1・2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



四日市市では、「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック2」（平成28年 四日市市教育委員会）などを基にして、授業改善に取り組んでいるよ！



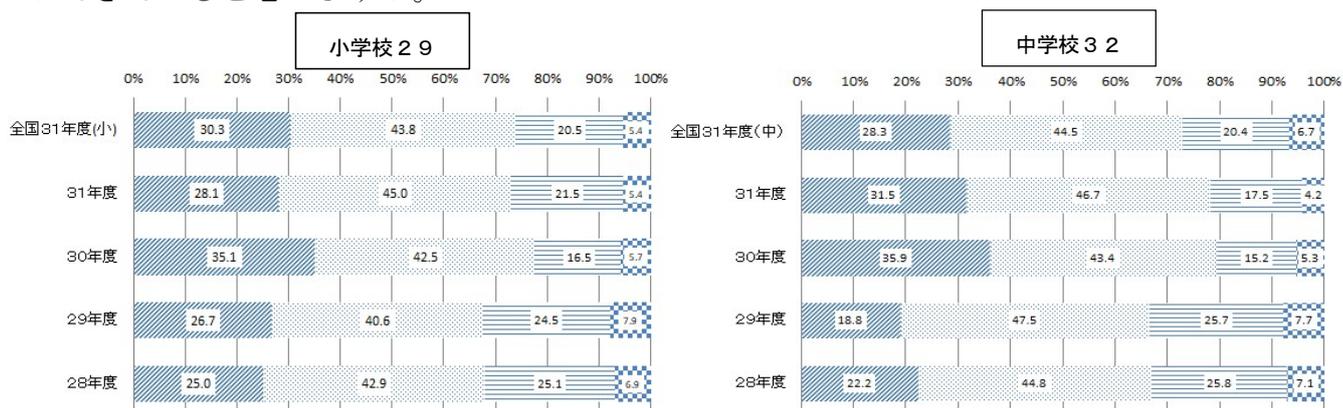
④言葉で通じ合う力に関わって

本市の子どもたちは、中学校において、**話し合う活動によって自分の考えが広がったり、互いの意見を認め合ったりする経験が保障されており、生徒の意識が高い**ことが分かる。

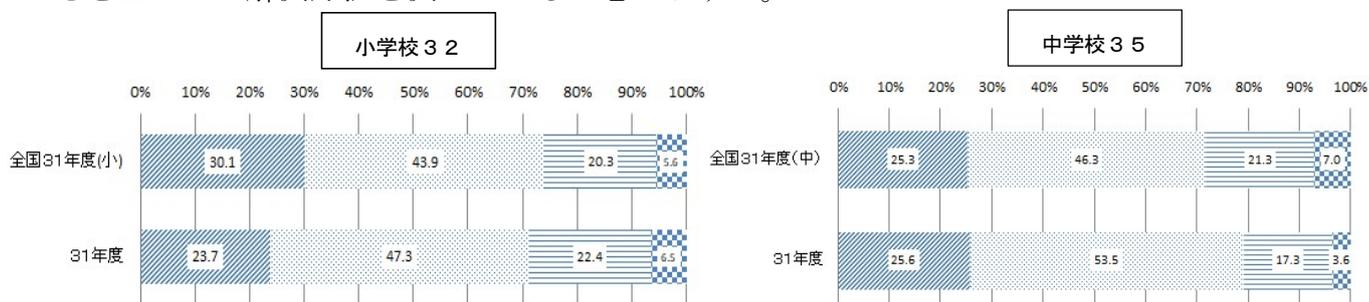
今後も、すべての教育活動において、友だちと思いや考えを共有し、ともに学ぶことの良さを実感できるようにしていくことが大切である。



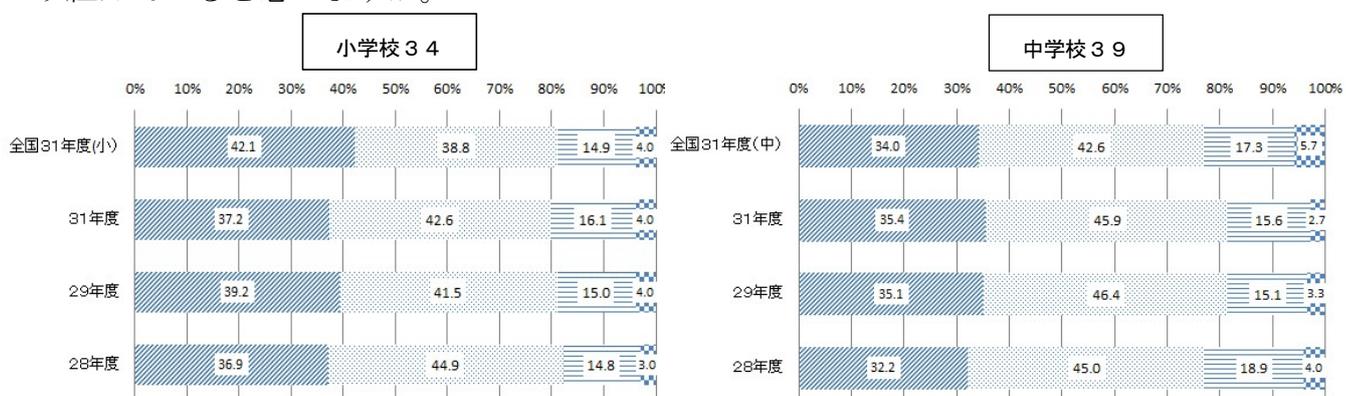
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。



- 道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。



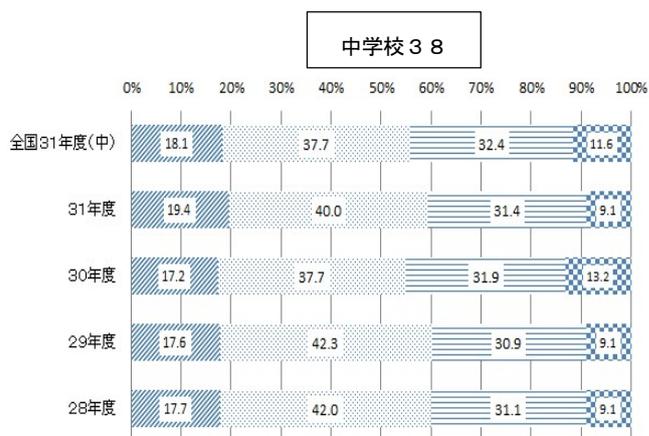
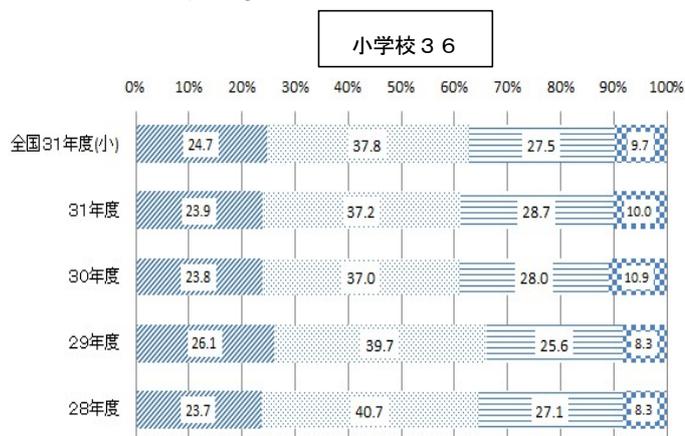
⑤分析的・クリティカルに吟味する力に関わって

社会には、すぐには解決できない多くの問題がある。そのような問題に出会ったときは、今までの道筋を見直し、様々な角度から再考することが大切である。

日々の授業などを通して、「**もっとうまくできる方法はないか**」「**複数の方法の違いは何か**」「**問題点はあるのか**」など、**友だち考え合う経験を保障する**必要がある。

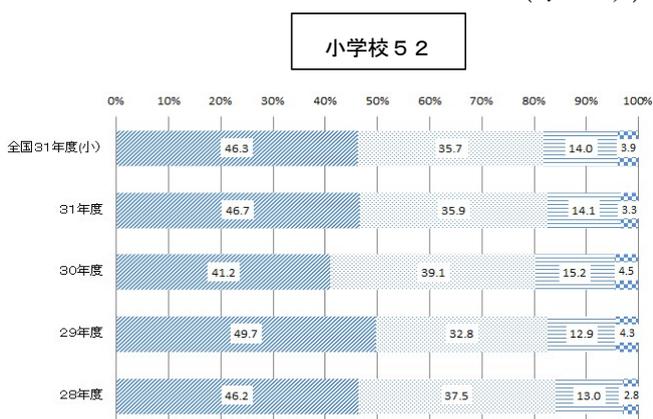


- 小学校5年生、中学校1・2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



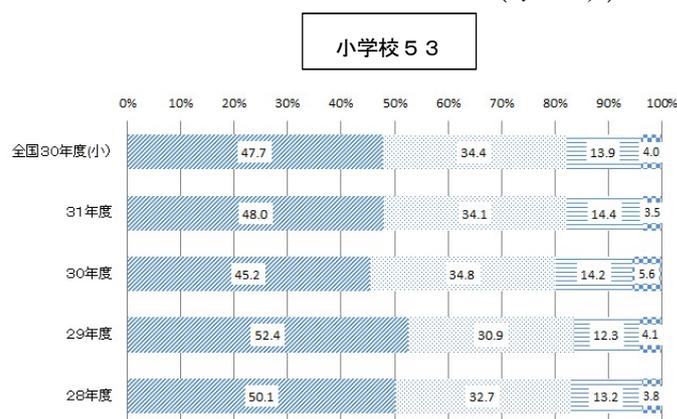
- 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。

(小のみ)



- 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。

(小のみ)



物事をじっくりと様々な角度から考える力を高めよう！



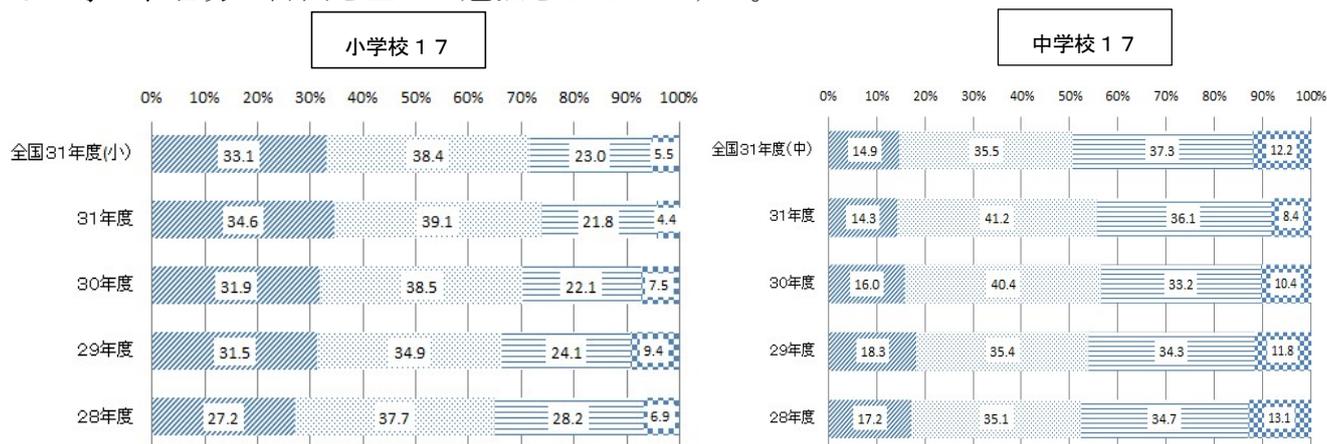
⑥自分の学習をコントロールする力に関わって

本市の子どもたちは、自分で計画を立てて勉強したり、学んだことを次の学習や普段の生活の中で活用したりしようとするなど、**自分の学びをコントロールし、確かな力にしようという意識をもっている**ことが分かる。

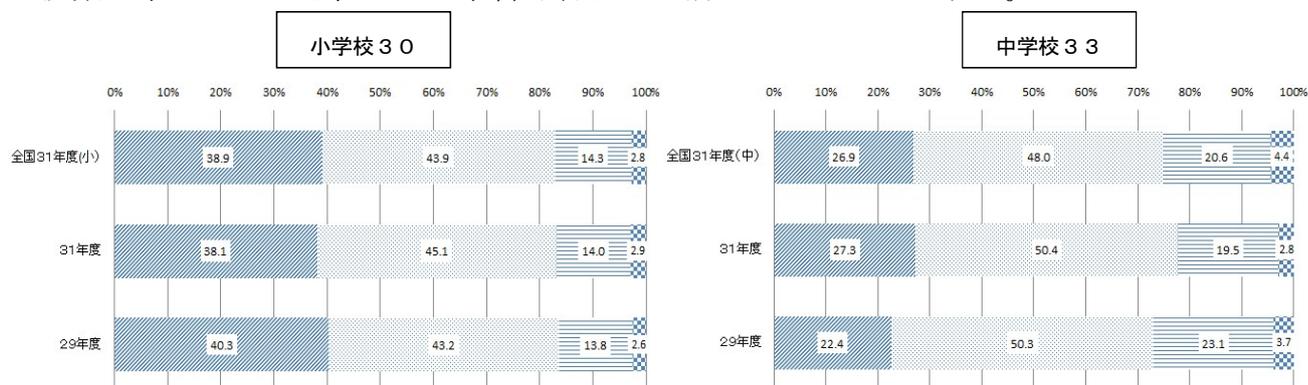
今後は、自分の学習や行動を評価し、次につなげる力がより求められます。



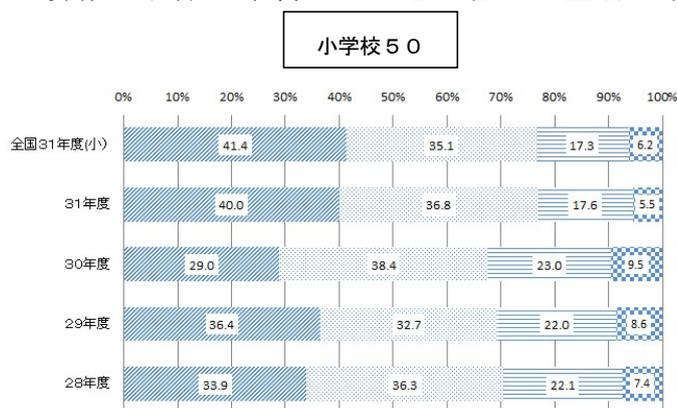
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



- 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか。



- 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。(小のみ)



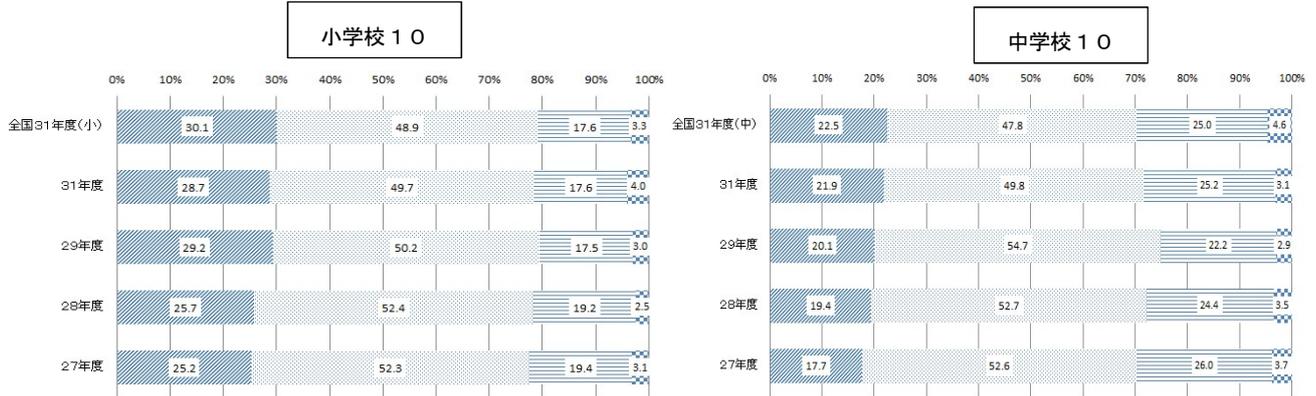
⑦新しいことや分からないことに挑戦する力に関わって

本市の子どもたちは、小中学校ともに身近な社会である地域に対して積極的に関わったり、自分にできることを考えたりする意識をもっている。

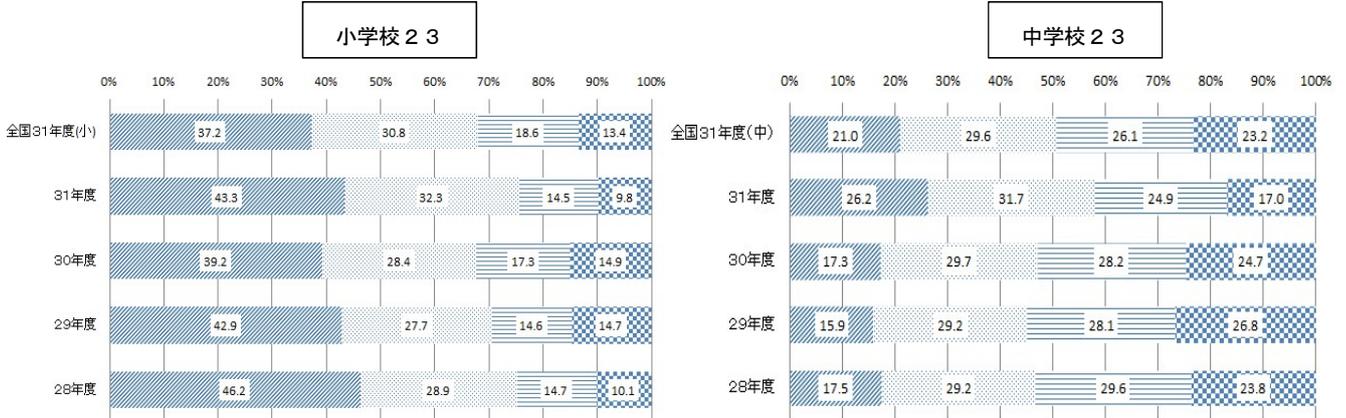


今後も、新しいことや分からないことに対しても、恐れずに挑戦し、そこから自分の見方や考え方を広げていけるような子どもたちを育てていくことが大切である。

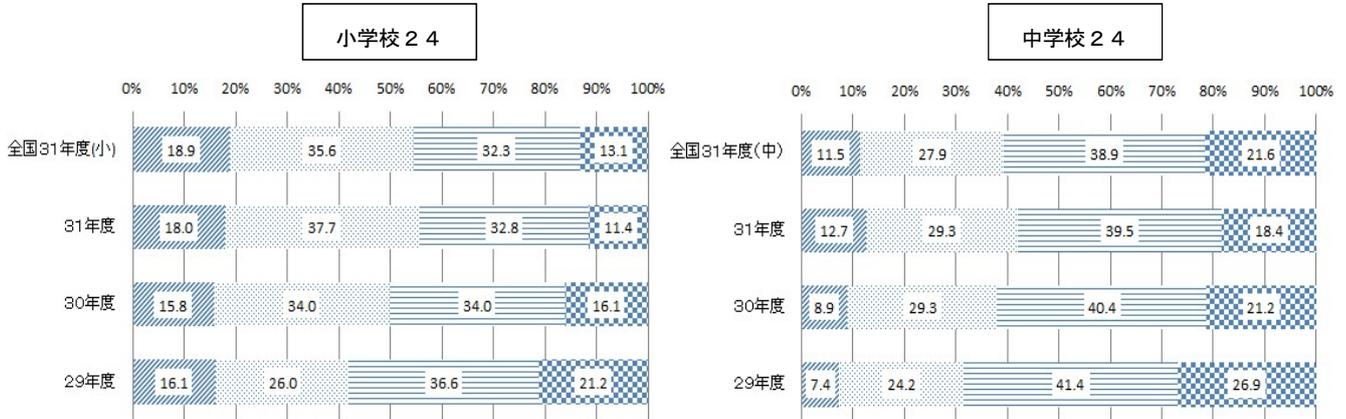
○ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



○ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



○ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



【コラム②】 四日市の子(小6、中3) 今年の結果から

～ 児童・生徒質問紙の本市結果を全国平均との差で見る ～

☆ **この割合が高い!** (+3～ 「多い」とみる。小中一方でも該当)

自己肯定感は、中3が全国と比べて高い。
 小6・中3とも先生との関係性がよい。
 国語・算数・数学・英語がよくわかると感じている子が多い。
 学校の学習が、将来、社会に出たときに役に立つと考えている子が多い。
 家で計画的に学習をしている子が多い。
 小6・中3とも地域の行事によく参加している。また、「地域・社会をよくしたい」と考えている。

○ 「自分には、よいところがあると思う」(中)という子が全国より多い!

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	81.2	81.2	0
中学校	77.5	74.1	+3.4

○ 「人が困っているときは、進んで助ける」という子が全国よりやや多い

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	89.5	87.9	+1.6
中学校	87.9	85.9	+2.0

○ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」という子が全国よりやや多い

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	87.5	86.1	+1.4
中学校	83.7	81.5	+2.2

○ 「先生は、授業やテストで間違ったところや理解していないところをわかるまで教えてくれると思う」という子が全国より多い!

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	94.8	91.7	+3.1
中学校	88.3	84.6	+3.7

○ 「今住んでいる地域の行事参加している」という子が全国より多い!

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	75.6	68.0	+7.6
中学校	57.9	50.6	+7.3

○ 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という子が全国よりやや多い

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	55.7	54.5	+1.2
中学校	42.0	39.4	+2.6



- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている子が全国より多い！

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	73.7	71.5	+2.2
中学校	55.5	50.4	+5.1

【学校の授業にかかわって】

- 「授業がよくわかる」と考えている子が全国より多い！

＜国語＞

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	86.1	84.9	+1.2
中学校	82.5	77.6	+4.9

＜算数・数学の授業＞

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	84.6	83.5	+1.1
中学校	80.7	73.9	+6.8

＜英語＞

学校種	四日市	全国	全国差
中学校	70.2	66.0	+4.2

- 「算数・数学・英語の授業が好き」と回答する子が全国より多い！

＜算数・数学の授業＞

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	69.6	68.6	+1.0
中学校	61.6	57.9	+3.7

＜英語＞

学校種	四日市	全国	全国差
中学校	58.0	56.0	+2.0

- 「将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている子が全国より多い！

中学校は顕著！

＜国語＞

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	91.8	91.2	+0.6
中学校	91.4	88.0	+3.4

＜算数・数学＞

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	93.9	92.5	+1.4
中学校	81.2	76.2	+5.0

＜英語＞

学校種	四日市	全国	全国差
中学校	87.6	85.4	+2.2

★ この割合がやや低い！

四日市の子どもたちは、全国とほぼ同じかそれ以上の肯定的回答をしています。

その中で、「やや低い」ものを取り出すと…

小・中学校とも「将来の夢や目標を持っている」と回答する子は全国平均よりやや低い。
 小・中学校とも、「国語の授業が好き」と回答する子は全国平均よりやや低い。
 小6は、外国の人や外国のことへ関心がやや低い。
 中3は、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答する子は全国平均よりやや低い

- 「将来の夢や目標を持っている」と考えている子は全国よりやや少ない

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	82.0	83.8	-1.8
中学校	70.0	70.5	-0.5

- 「国語の勉強が好き」と回答する子の割合が全国より少ない。

学校種	四日市	全国	全国差
小学校	60.7	64.2	-3.5
中学校	61.3	61.7	-0.4

- 中3は、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答える子が全国よりやや少ない。

学校種	四日市	全国	全国差
中学校	76.9	78.0	-1.1

- 外国の人や外国のことへの関心

小6は、設問①②に対して肯定的回答が全国より少ない。

【設問①】「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしたい」

【設問②】「日本や住んでいる地域のことについて外国の人にもっと知ってもらいたい」

小学校	四日市	全国	全国差
設問①	67.4	68.6	-1.2
設問②	74.5	76.1	-1.6

【参考資料】 外国の人や外国のことへの関心

- 中3になると設問①②に対して肯定的回答が全国より高くなる。

中学校	四日市	全国	全国差
設問①	65.8	62.4	+3.4
設問②	62.1	59.3	+2.8

- 「将来積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と回答する子どもが多い！

学校種	四日市	全国	全国差
中学校	45.9	41.3	+4.6

英語に関する生徒質問紙の結果について

<考察>

本市の中3の子どもたちは、英語の授業について、多様な指導を受けてきたと実感している。

< 1、2年生のときに受けた英語の授業についての設問 >

- 【設問①】 英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動
- 【設問②】 英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動
- 【設問③】 原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動
- 【設問④】 スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動
- 【設問⑤】 自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動
- 【設問⑥】 聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動
- 【設問⑦】 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動

<肯定的な回答結果>

中学校	四日市	全国	全国差
【設問①】	83.0	79.2	+3.8
【設問②】	84.7	81.2	+3.5
【設問③】	78.6	62.9	+15.7
【設問④】	87.1	77.2	+9.9
【設問⑤】	83.3	80.1	+3.2
【設問⑥】	80.0	77.4	+2.6
【設問⑦】	76.7	74.6	+2.1

5 学校質問紙の結果について

(1) 学力向上に関する全市的な取り組み状況について

四日市市の全小中学校では、子どもたちの学力向上のため、平成25年1月から「学力向上のための4つの取り組み」を推進している。

【取り組み1】全国学力・学習状況調査問題の活用

※肯定的な回答をした割合

各調査項目について、全国平均と比較すると、肯定的な回答をした割合は高くなっている。各学校で自校の結果を分析し、その結果を校内研修会などにおいて、指導改善に結び付けていることが分かる。

本市の特徴は、学びの一体化の取り組みによって、中学校区での分析結果（成果や課題）の共有が、全国と比較して進んでいることである。

番号	調査項目	種別	本市	全国
63	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	小	100.0	97.3
79		中	100.0	95.7
20	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	小	100.0	95.3
20		中	100.0	93.7
53	平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有しましたか。	小	83.8	60.6
67		中	90.9	60.0

【取り組み2】全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善

本市では、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、各教科等において言語活動を充実し、児童生徒の言語能力を向上させることを大切にしている。そのことが以下の結果に表れていると考える。

今後も、各教科等の指導内容の定着を図りながら、言語活動をより充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現していく。

番号	調査項目	種別	本市	全国
29	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。	小	94.6	92.1
30		中	100.0	84.4
19	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。	小	100.0	97.2
19		中	100.0	95.1

【取り組み3】学習習慣の確立と学習補充の充実

<家庭学習の定着>

小中学校のほとんどの項目において、全国平均と比較して高い割合を示している。今後も家庭学習や補充学習を推進し、学力保障につなげていく。

番号	調査項目	種別	本市	全国
61	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか。	小	100.0	99.3
75		中	100.0	89.7
59	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。(教科共通)	小	97.3	92.2
73		中	100.0	87.0
62	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか。	小	100.0	96.7
76		中	100.0	93.0
60	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。(教科共通)	小	97.3	95.5
74		中	100.0	92.3

<補充学習の充実>

番号	調査項目	種別	本市	全国
45	調査対象学年の児童に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。	小	94.6	96.5
46		中	95.4	94.3

<保護者・地域への働きかけ>

番号	調査項目	種別	本市	全国
64	平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	小	100.0	91.2
80		中	100.0	87.5

【取り組み4】 継続的な学びへの取り組み

小中学校すべての項目において、全国平均を大きく上回っている。平成18年度から全中学校区で学びの一体化として、幼こ保小中の連携を進め、「確かな学力」「健やかな成長」をめざし、取り組みを進めてきた結果だと考える。

今後も中学校区で連携して、校区の子どもたちを共に育てていく指導体制をしっかりと整備する。

番号	調査項目	種別	本市	全国
52	前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	小	94.6	70.6
66		中	100.0	76.2
51	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。	小	94.6	65.0
65		中	81.8	68.0

(2) 新学習指導要領を踏まえた授業改善等について

※ 本項では、肯定回答のみを取り扱い、全国の結果と比較する。

肯定回答：1よくあてはまるを回答したもの

◇肯定回答が、全国の結果を上回っている項目

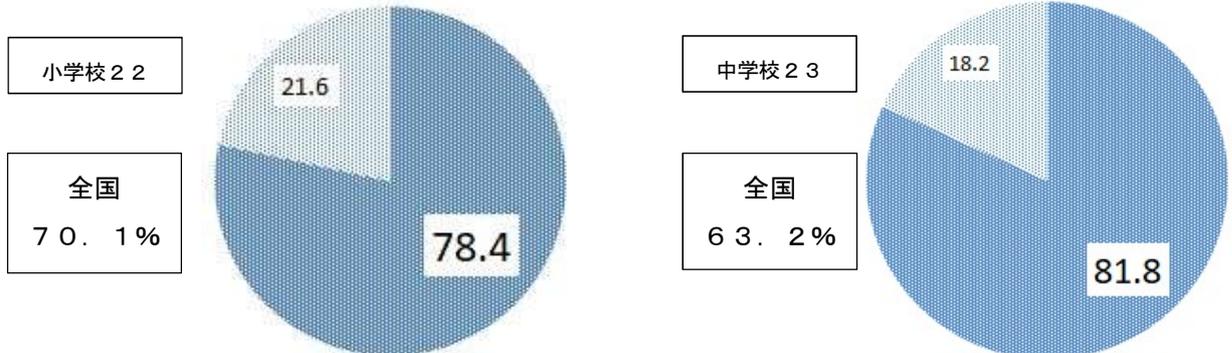
<小中とも>

- ・ 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。
- ・ 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。
- ・ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。
- ・ 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。
- ・ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。
- ・ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。

<中のみ>

- ・ 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。

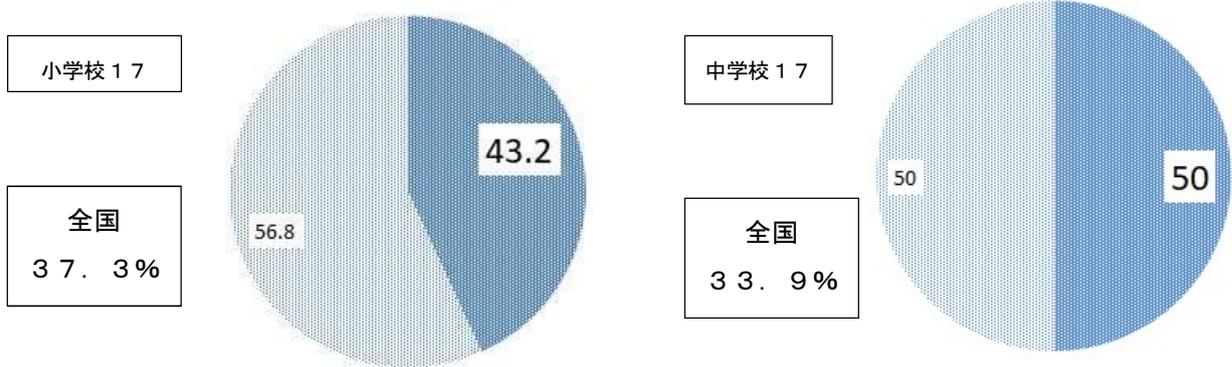
- 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。



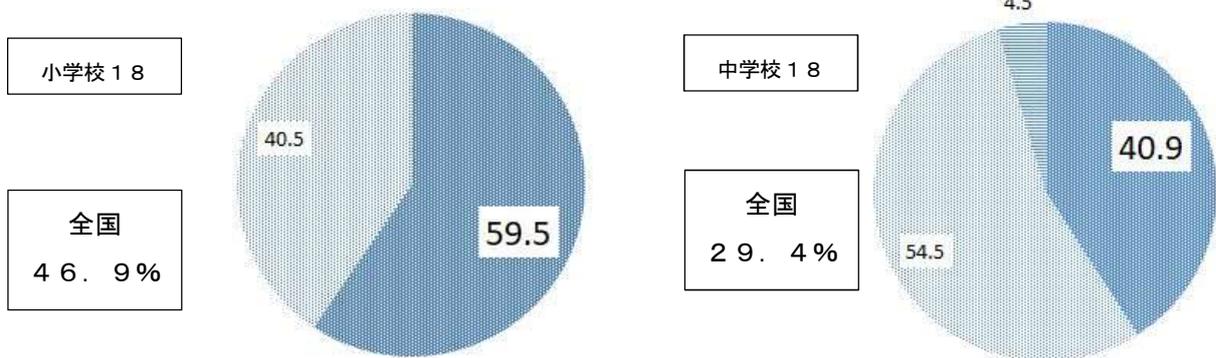
- 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。



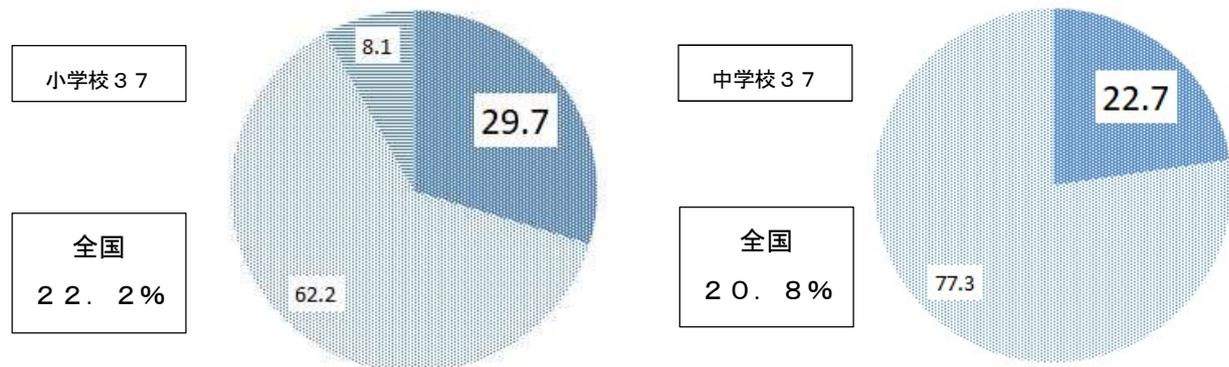
○ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



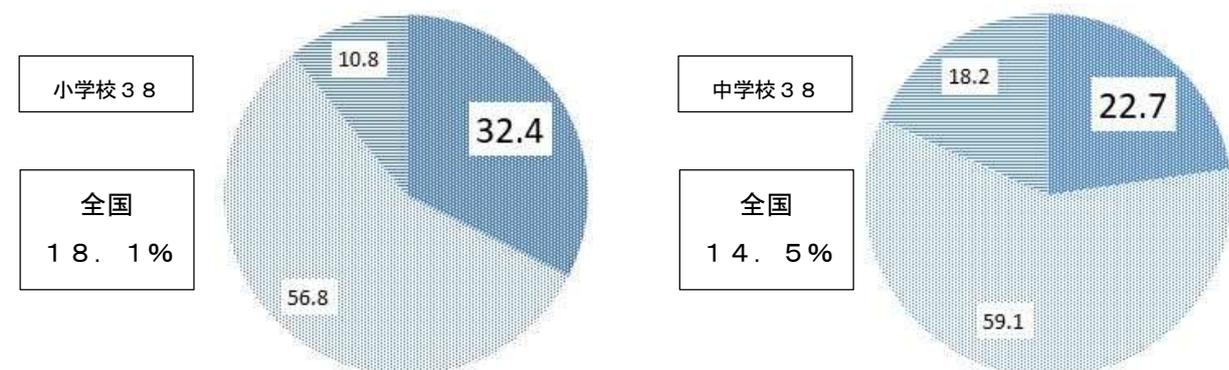
○ 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。



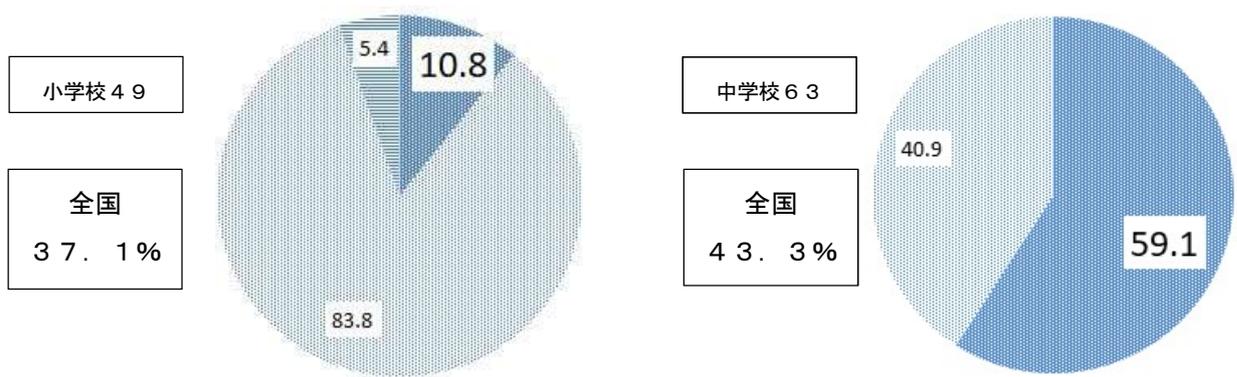
○ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。



○ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。



- 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。



<考察>

- 新学習指導要領の全面実施に向けて、その趣旨等を踏まえた授業改善及び学校改革が求められている。

本市においては、「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか」、「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか」の肯定回答が全国を大きく上回っていることから、校長を中心に外部の様々な見方・考え方を取り入れながら、授業改善及び学校改革が進められていることが分かる。

- 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」、「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか」の設問についても、全国を上回っている。社会に開かれた教育課程の考え方が浸透していることが分かる。

- 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」の設問については、「2どちらかといえば当てはまる」を含むと、肯定的回答の割合がほぼ100%に近い割合になっている。

本市が進めている四日市モデルの取り組みが浸透し、各学校において問題解決的な授業づくりが進んでいるものと思われる。

- 「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。」の設問については、小中学校ともに全国を上回っている。

新学習指導要領において、基礎的・汎用的能力や教科横断的な資質・能力の育成が求められている。日々の授業で、学んだことを活用する場面が保障されることによって、子どもたちは学ぶことの大切さを実感することができ、学びに向かう力を向上させていく。今後も、全教育活動において指導者が意識を高める必要がある。

- ICTの活用については、小学校において「2どちらかといえば当てはまる」を含むと100%に迫っているものの、「1よく当てはまる」の割合が全国よりも低くなっている。今後も分かりやすい授業づくりを目指し、ICTの効果的な活用について研修を進めていく必要がある。

6 今後の取り組みの重点

主として学校において

1 全国学力・学習状況調査の活用等

(1) 学力調査に関わって

- 全教職員が問題を解くことで、出題のねらい、今後求められる力等を把握するとともに、調査実施後、児童・生徒の解答類型から、つまずきを把握・分析して指導の重点を明確にする。
- 全国の結果との比較や、経年での変化を把握することで、学校としての強み・弱みを明らかにし、全校及び学年で、学力向上に向けた取り組みを進める。

(2) 学習状況調査に関わって

- 学習状況調査の結果と学校の取り組みと照らし合わせることで、指導の効果を検討・改善する。
- 学校質問紙を併せて分析することで、児童・生徒と指導者の意識のズレを把握し、指導改善につなげる。

(3) 「学びの一体化」と関わって

- 本調査で得られた強み・弱みについて、中学校区で共通理解を図り、発達段階に応じた指導方法等の連携を図る。
- 家庭学習や補充学習について、従来の方法を見直すなど、さらなる改善に取り組む。
- 保護者への働きかけの充実を図る。
 - ・ 家庭学習の定着、自主学習ノートによる定着、シラバスやHPを活用した家庭への啓発 等
 - ・ 補充学習の充実、長期休業及び放課後等の学習、「全体」と「個別」の補充学習の検討 等
 - ・ 課題について調べ自分の考えをまとめるなど、知識・技能の活用を目指す宿題 等

2 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック2」を活用した授業改善

ポイント① 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科・単元・授業において育成する資質・能力を明確にする。

ポイント② 子どもたちが主体的・対話的に学ぶ視点を大切に、単元・授業を構想する。

(1) 第1プロセス「問題の理解」

- 学習課題等の設定により、児童生徒の問題意識や解決しようとする意欲を喚起させる。【学習課題等の提示】
 - ・ 身に迫った切実感のある課題を提示するなど、児童生徒が考えざるを得ない状況をつくる。
 - ・ 「～を活用して」など知識や技能の活用や、「ペアで～しよう」など協働的な学びを促す。
 - ・ 「なぜ？」と根拠や原因を考えさせたり、「～を説明しよう」などアウトプットを意識させたりする。
 - ・ 実生活、実社会などにつながる学習課題や問題等を工夫する。
- 学習課題等と合わせた「授業のゴール」を子どもの姿として設定する。【評価規準の明確化】

(2) 第2プロセス「問題の特徴づけと表現」

- 問題意識等を大切にしながら、解決するための糸口がつかめるように支援する。【問題解決の見通し】
- 見通しを持たせる場面において、ICT機器を効果的に活用する。【指導者のICT機器の活用】

(3) 第3プロセス「問題の解決」

- ねらいに合わせた主活動（言語活動等）を設定する。【主活動の時間確保と言語活動の充実】
- 児童生徒の問題意識等に合わせて、自力解決をしたり、互いの考えを交流したりすることができるようにする。
【個の問題意識に合わせた解決（学び合いを含む）】
- 児童生徒のつまずきとそれに合わせた支援を準備する。【つまずきへの適切な支援】
- 児童生徒がICT機器や思考ツール等を活用できるようにする。【児童生徒のICT機器等の活用】

(4) 第4プロセス「解決方法の共有」

- 児童生徒が自分の考えを説明したり、資料等を提示して根拠を示したりするような学習活動の充実を図る。

【アウトプットする場の設定】

(5) 第5プロセス「問題の熟考と発展」

- 授業のねらいや学習活動を踏まえ、児童生徒自身が「何を学んだのか」、「何ができるようになったのか」を実感できる振り返りを行う。【学習の振り返り】
- 他の単元へのつながりや教科横断的な視点、さらに日常生活への活用を意識する。

【実社会・実生活につながる汎用的能力の視点】

3 「学習の基盤となる7つの力」の育成

7つの力	大切にしたい学習活動や視点等
①論理的に考える力	各教科等の学習の中で、自分の考えに対して明確な根拠や理由を持たせたり、自分の創った論理を見直したりする学習活動を大切にする。
②情報を整理し活用する力	I C T機器や新聞を活用したり、文章やグラフ・表などのデータ等を整理したりする学習活動を大切にする。
③問題を解決する力	「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック2」等を活用し、子どもが自ら考え、友達とともに解決する単元・授業を大切にする。
④言葉で通じ合う力	各教科等の学習の中で、自分の考え等を友達に分かってもらえるまで工夫して話す、友達が伝えたいことについて意図等を含めて深く理解して聞く学習活動を大切にする。
⑤分析的・クリティカルに吟味する力	自分の考えや、論理的に書かれた文章等について、内容や構成、筆者の意図など様々な側面から考え直す学習活動を大切にする。
⑥自分の学習をコントロールする力	自分は何がわかったのか、何が明確になっていないのか、次に何を考えるのかなど、常に自分の学びを意識し、自己の学習を見つめる場面を大切にする。
⑦新しいことや分からないことに挑戦する力	好奇心や探求心など授業や単元のはじめに抱いた思いを、充実感や達成感につなげることによって、児童生徒の学びに向かう力を高めることを大切にする。

主として教育委員会事務局において

1 情報発信の充実

- 本市調査結果の分析をホームページで公表する。
- 教職員対象の「学力向上研修会」を実施し、具体的な指導方法等について説明する。
- リーフレット「授業づくり ヒント&ポイント」を発行し、効果のある実践的な取り組みを発信する。
- 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック2」に基づく主体的・対話的な授業づくりを推進する。
- 今日の教育課題に対応した教職員研修を企画・実施する。

2 学力向上にかかわる教育施策の整備

- 学校と連携した学力向上につながる教育施策の整備・改善・展開に努める。
 - ・到達度検査の実施 ・読書活動の推進 ・少人数指導の充実 ・四日市版コミュニティースクールの推進
 - ・幼・こ・保・小・中が連携した学びの一体化事業の推進 等
- 学校への要請訪問において、学校の課題に応じた具体的な指導・助言を行う。

3 三重県教育委員会との連携

- 三重県教育委員会HP（授業サイクル支援ネット）のワークシートの活用を促進する。
- みえスタディチェックの自校採点・結果分析等を授業改善に生かすよう働きかける。

7 参考資料

- 国立教育政策研究所
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
 - ・平成31年度全国学力・学習状況調査 解説資料 平成31年4月
 - ・平成31年度全国学力・学習状況調査 報告書 平成31年7月
 - ・平成31年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 平成31年8月
- 文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
 - ・平成29・30年改訂 学習指導要領、解説等
 - ・小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント
 - ・社会に開かれた教育課程
 - ・育成すべき資質・能力の三つの柱 など
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiouen/1300990.htm
 - ・授業改善のための参考資料（言語活動、外国語教育など）
- 内閣府等
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
 - ・Society 5.0
- 外務省等
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>
 - ・JAPAN SDGs Action Platform
- 小・中学校教育指導方針～生きる力 共に生きる力をはぐくむ教育～（四日市市教育委員会）
- 問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック1・2（四日市市教育委員会）
- 家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成
国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆
(池迫弘子 宮本晃司 ベネッセ教育総合研究所 (訳))
<http://www.oecd.org/education/ceri/FosteringSocialAndEmotionalSkillsJAPANESE.pdf>
教育フォーカス（ベネッセ教育総合研究所）
https://berd.benesse.jp/feature/focus/11-OECD/activity01/page_2.html
- 学力テストでは測れない 非認知能力が子どもを伸ばす（東京書籍 中山芳一）